

松浦市文化財調査報告書 第5集

松浦市内遺跡確認調査(3)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告

2012

長崎県松浦市教育委員会

松浦市文化財調査報告書 第5集

松浦市内遺跡確認調査(3)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告



2012

長崎県松浦市教育委員会

報 告 書 抄 録

ふりがな	まつうらしないいせきかくにんちょうさ(3)							
書名	松浦市内遺跡確認調査(3)							
副書名	土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告							
巻次								
シリーズ名	松浦市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第5集							
編集者名	江上正高							
編集機関	松浦市教育委員会							
所在地	〒859-4598 長崎県松浦市志佐町里免365番地 TEL0956-72-1111 E-mail matsuura@city.matsuura.lg.jp							
発行年月日	西暦 2012年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たろうやいせき じ 田口高野遺跡5次	御厨町西田免小川 原ノ辻402-1他	42208	208-056	33° 21' 39"	129° 46' 33"	20091013 ~20091016	10m ²	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	旧石器		黒曜石・貿易陶磁器				
くぼのいせき じ 久保園遺跡7次	志佐町里免 238-1他	42208	208-024	33° 20' 2"	129° 42' 41"	20090730 ~20090807	24m ²	宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	中世	柱穴跡	土師器・貿易陶磁器				
みやのさがりいせき じ 宮ノ下り遺跡7次	志佐町里免 森野川94-1他	42208	208-077	33° 20' 2"	129° 42' 41"	20100316 ~20100329	54m ²	宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	縄文・中世	柱穴跡	土師器・貿易陶磁器				
はまいせき ぎざが浜遺跡	今福町北免 前田670番	42208	208-004	33° 21' 40"	129° 46' 32"	20110131 ~20110201	4m ²	携帯電話基地局 建設工事
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	古墳						
つじのおいせき じ 辻ノ尾遺跡4次	志佐町浦免808番地	42208	208-074	33° 20' 24"	129° 42' 43"	20110307 ~20110311	60m ²	松浦市立志佐中学 校体育館立替工事
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	旧石器・縄文		黒曜石製品・土師器				
かやのきいせき じ 栢ノ木遺跡24次	志佐町庄野免 802-2他	42208	208-026	33° 19' 43"	129° 42' 27"	20110315 ~20110328	72m ²	範囲確認調査
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	弥生・中世	柱穴跡・土坑跡	弥生土器・貿易陶磁器				
かやのきいせき じ 栢ノ木遺跡25次	志佐町庄野免 769-2他	42208	208-026	33° 19' 50"	129° 42' 30"	20111108 ~20111219	160m ²	範囲確認調査
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	包含層	弥生・中世	柱穴跡・土坑跡	弥生土器・土師器		旧河道跡		
つじのおいせき 辻ノ尾遺跡 りんせつち (隣接地)	志佐町里免 530-1他	42208		33° 20' 21"	129° 42' 43"	20111220 ~20111227	16m ²	宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
		中世		土師器・貿易陶磁器		風倒木		

発刊にあたって

長崎県松浦市は平成18年の一市二町の合併後、地域の活力の基本といえる「人」に焦点をあてた政策の推進に努めています。この政策の一つに、福岡都市圏と「人」の交流を掲げています。交流は現在だけではなく、古来の人々も海や陸を介して中国大陸や朝鮮半島との交流が行われていました。それらは、市内の各所に所在する文化財が物語っています。

松浦市では各種開発と埋蔵文化財の保護・調整のための確認・試掘調査を、国庫補助事業として平成7年度より継続して実施しています。本書は平成21年度から平成23年度に確認・試掘調査を実施した報告です。

本書が埋蔵文化財保護への理解と認識を深める一助となるとともに学術研究の資料として広くご活用いただけましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、文化庁・長崎県教育委員会及び関係者の方々のご協力により本書を刊行することができましたことに対して、ここに心から謝意を表します。

平成24年3月23日

長崎県松浦市教育委員会

教育長 松 尾 紘

例 言

1. 本書は、平成21年度から平成23年度にかけて実施した遺跡の確認・試掘調査の報告である。
2. 調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会生涯学習課が主体となって実施した。
3. 調査及び本報告書作成にあたっては、長崎県教育委員会学芸文化課・同教育委員会佐世保文化財調査事務所をはじめ、多くの方にご指導・ご協力を賜った。
4. 調査は平成21・22年度が松尾昭子、平成23年度は江上正高があたった。
5. 出土した遺物の実測・製図・拓影図の作成は宮崎朝美・江上、遺物の写真撮影は江上があたった。
なお、図版の縮尺は不統一である。
6. 本書で取り扱っている旧河道跡は、生活の場の一部であったため遺構の項で記載した。
7. 本書で用いた貿易陶磁器の器種分類及び編年観は、以下の文献に準拠した。
・『大宰府条坊跡XV』－陶磁器分類編－ 2000 太宰府市の文化財第49集 太宰府市教育委員会
8. 本書の執筆・編集は江上があたった。
9. 本書にかかわる出土遺物は、松浦市生涯学習センター（松浦市志佐町浦免1483番地1）郷土資料室で収蔵・保管・公開する予定である。

目 次

第Ⅰ章	はじめに	1
	1. 調査に至る経緯	1
	2. 調査の組織	1
第Ⅱ章	地理的・歴史的環境	3
	1. 地理的環境	3
	2. 歴史的環境	3
第Ⅲ章	平成21年度確認・試掘調査の概要	5
	1. 田口高野遺跡5次	5
	2. 久保園遺跡7次	6
	3. 宮ノ下り遺跡7次	9
第Ⅳ章	平成22年度確認・試掘調査の概要	11
	1. ぎざが浜遺跡	11
	2. 辻ノ尾遺跡4次	12
	3. 栢ノ木遺跡24次	12
第Ⅴ章	平成23年度確認・試掘調査の概要	15
	1. 栢ノ木遺跡25次	15
	2. 辻ノ尾遺跡（隣接地）	19
第Ⅵ章	まとめ	21

挿 図 目 次

第1図	平成21年度から平成23年度所収遺跡位置図 (1/100,000)	2	第13図	7次調査区出土遺物(1/3)	10
第2図	田口高野遺跡5次位置図(1/10,000)	5	第14図	ぎざが浜遺跡位置図(1/10,000)	11
第3図	5次調査区設定図(1/600)	5	第15図	調査区設定図(1/600)	11
第4図	5次調査区土層図(1/40)	5	第16図	調査区土層図(1/40)	11
第5図	5次調査区出土遺物(2/3)	6	第17図	辻ノ尾遺跡4次位置図(1/10,000)	12
第6図	久保園遺跡7次位置図(1/10,000)	6	第18図	4次調査区設定図(1/600)	12
第7図	7次調査区設定図(1/2,000)	6	第19図	栢ノ木遺跡24次位置図(1/10,000)	12
第8図	7次調査区平面図・土層図(1/40)	7	第20図	24次調査区設定図(1/4,000)	13
第9図	7次調査区出土遺物(1/3)	8	第21図	24次調査区平面図・土層図(1/40)	13
第10図	宮ノ下り遺跡7次位置図(1/10,000)	9	第22図	24次調査区出土遺物(1/3、2/3)	14
第11図	7次調査区設定図(1/1,000)	9	第23図	栢ノ木遺跡25次位置図(1/10,000)	15
第12図	7次調査区平面図・土層図(1/40)	10	第24図	25次調査区設定図(1/4,000)	15
			第25図	25次調査区土層図①(1/40)	16

第26図	25次調査区平面図・土層図②（1／40）	17
第27図	25次調査区出土遺物①（1／3、1／1）	18
第28図	25次調査区出土遺物②（2／3、1／3）	19
第29図	辻ノ尾遺跡（隣接地）位置図（1／10,000）	19

第30図	調査区設定図（1／3,000）	20
第31図	調査区平面図・土層図（1／40）	20
第32図	調査区出土遺物（1／3）	20
第33図	栢ノ木遺跡19次から25次調査区配置図 （1／3,000）	22

表 目 次

表 1	平成21年から平成23年度の法第93条・法第94条関係 届出等一覧表	2
表 2	遺物観察表①	23
表 3	遺物観察表②	24

表 4	出土遺物一覧表①	25
表 5	出土遺物一覧表②	26
表 6	久保園遺跡7次出土遺物組成表	26
表 7	栢ノ木遺跡25次旧河道跡出土遺物組成表	26

図 版 目 次

図版 1	田口高野遺跡5次遠景	28
図版 2	田口高野遺跡5次T1北壁土層	28
図版 3	田口高野遺跡5次T2北壁土層	28
図版 4	田口高野遺跡5次出土遺物	28
図版 5	久保園遺跡7次遠景	28
図版 6	久保園遺跡7次T4北壁土層	28
図版 7	久保園遺跡7次T5P1・2完掘状況	28
図版 8	久保園遺跡7次T5北壁土層	28
図版 9	久保園遺跡7次出土遺物①	29
図版10	久保園遺跡7次出土遺物②	29
図版11	久保園遺跡7次出土遺物③	29
図版12	久保園遺跡7次出土遺物④	29
図版13	宮ノ下り遺跡7次T1西壁土層	29
図版14	宮ノ下り遺跡7次T2西壁土層	29
図版15	宮ノ下り遺跡7次T5西壁土層	29
図版16	宮ノ下り遺跡7次出土遺物	29
図版17	ぎざが浜遺跡遠景	30
図版18	ぎざが浜遺跡T1西壁土層	30
図版19	辻ノ尾遺跡4次遠景	30
図版20	辻ノ尾遺跡4次T2西壁土層	30

図版21	栢ノ木遺跡24次T3東壁土層	30
図版22	栢ノ木遺跡24次T5遺構完掘状況	30
図版23	栢ノ木遺跡24次T5落ち込み完掘状況	30
図版24	栢ノ木遺跡24次T6遺構完掘状況	30
図版25	栢ノ木遺跡24次出土遺物①	31
図版26	栢ノ木遺跡24次出土遺物②	31
図版27	栢ノ木遺跡24次出土遺物③	31
図版28	栢ノ木遺跡25次遠景	31
図版29	栢ノ木遺跡25次T17SR完掘状況	31
図版30	栢ノ木遺跡25次T18東壁土層	31
図版31	栢ノ木遺跡25次T19SR1・2完掘状況	31
図版32	栢ノ木遺跡25次T20完掘状況	31
図版33	栢ノ木遺跡25次出土遺物①	32
図版34	栢ノ木遺跡25次出土遺物②	32
図版35	栢ノ木遺跡24次・25次出土遺物	32
図版36	辻ノ尾遺跡（隣接地）T1風倒木完掘状況	32
図版37	辻ノ尾遺跡（隣接地）T2VI層完掘状況	32
図版38	辻ノ尾遺跡（隣接地）T3完掘状況	32
図版39	辻ノ尾遺跡（隣接地）T4完掘状況	32
図版40	辻ノ尾遺跡（隣接地）出土遺物	32

第 I 章 はじめに

1. 調査に至る経緯（第 1 図 表 1）

松浦市における埋蔵文化財保護行政は、長崎県教育委員会の指導のもと、文化財保護法に基づき立会調査や確認調査など積極的に対応している。その成果もあり、現在では開発行為を行う際の事前に文化財保護に関する照会や届出の増加は埋蔵文化財の周知が整いつつある。

平成21年度の法第93条・法第94条関係届出等の件数は16件で、このうち国庫補助・県費補助事業（以下、補助事業という）関係で実施した確認調査件数は、3件である。

平成22年度の法第93条・法第94条関係届出等の件数は9件で、このうち国庫補助・県費補助事業（以下、補助事業という）関係で実施した確認調査件数は、3件である。

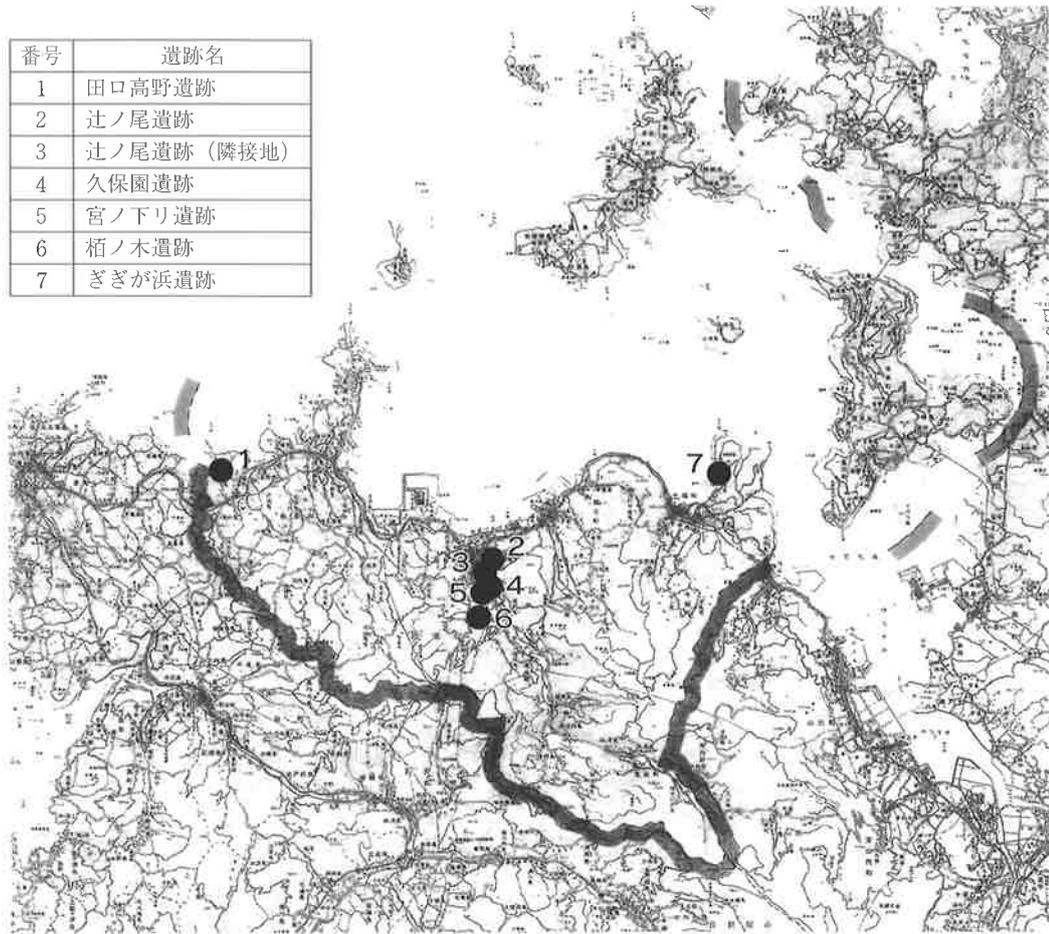
平成23年度の法第93条・法第94条関係届出等の件数は10件で、このうち国庫補助・県費補助事業（以下、補助事業という）関係で実施した確認調査件数は、2件である。

3年間の傾向として市域では公共事業は減少する傾向を示しているが、民間開発事業の行為は増加の傾向を示している。また、県教育委員会による西九州自動車道建設に伴う確認調査や本調査が行われている。市街地周辺部の照会の増加傾向は、開発が進んでいることの現われである。

2. 調査の組織（敬称略す）

調査主体	松浦市教育委員会事務局（平成21年4月1日～平成24年3月31日）		
教育長	松尾 紘	教育次長	今西 誠司
生涯学習課長	神田 稔（平成22年3月31日まで）	辻 嘉文（平成22年4月1日から）	
課長補佐	中田 敦之（平成23年12月31日まで）		
	（兼文化財室文化財係長・兼社会教育主事・兼学芸員）		
生涯学習課主幹	中田 敦之（平成24年1月1日から）	（兼文化財室長・兼学芸員）	
文化財室文化財係	松尾 昭子（学芸員）（平成23年9月30日まで）	服部 浩史	
	明石 拡子（平成22年4月1日から）	江上 正高（平成23年6月1日から）	
整理補助員	宮崎 朝美・福寿 幸子・吉野 貴子		
調査参加者	石黒小夜子・川久保義之・坂本秀則・里森知恵子・崎田政子・田中稔・末永民子 竹山勝治・田崎今朝市・田代タミ子・田中節子・田中幸江・田中佐恵子・富本敏子 原葉子・中島カズ子・前田数子・前田義孝・増本義隆・森淑子・松本由紀 増本ツギ子・松永セツエ・松永ヒデミ・松永チエ子・森山浩一郎・筒井文夫 森山八重美・吉田末千子・渡口米子・渡口洋子・池田正子・高橋美保子・須藤幸広		
調査協力者	久保川清・松崎康夫・辻竹 司・辻竹信一・北川浩幸・中川五一郎・猪口 榮 北川 登・戸山政行・松永貞夫・社団法人長崎県港湾漁港建設業協会 （株）グットハウス・（株）エヌ・ティ・ティ・ドコモ		

番号	遺跡名
1	田口高野遺跡
2	辻ノ尾遺跡
3	辻ノ尾遺跡（隣接地）
4	久保園遺跡
5	宮ノ下り遺跡
6	栢ノ木遺跡
7	ぎぎが浜遺跡



第1図 平成21年度から平成23年度 所収遺跡位置図（1/100,000）

年度	遺跡名	届出地	事業内容	事業主	処置
21	八幡山城跡	今福町東免	道路建設	国土交通省	発掘調査
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	道路建設	国土交通省	発掘調査
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	排土置き場	長崎県	慎重工事
	アカニク遺跡	御厨町板橋免150番地	堤体改良	長崎県	慎重工事
	大岳古墳	御厨町善住免379番地1	地籍調査	松浦市	慎重工事
	久保園遺跡	志佐町里免199	駐車場建設	個人	確認調査
	古園遺跡	潤川町中免赤坂	ボーリング調査	長崎県	慎重工事
	久保園遺跡	志佐町里免238番地1	共同住宅建設	個人	確認調査
	鷹島海底遺跡	鷹島町中通免地先公有水面他	土砂採取	社団法人	慎重工事
	辻ノ尾遺跡	志佐町浦免738番地1	校舎改築	長崎県	確認調査
	今福遺跡	今福町弘坂免	道路建設	国土交通省	発掘調査
	牟田池上遺跡	星鹿町牟田免399番地1	駐車場建設	個人	立会調査
	中ノ瀬遺跡	今福町東免	道路・配電建設	国土交通省	慎重工事
	宮ノ下り遺跡	志佐町里免94番地1他	共同住宅建設	個人	試掘調査
	辻ノ尾遺跡	志佐町浦免465番地他	学校体育館建設	松浦市	慎重工事
田口高野遺跡	御厨町西田免402番地1	個人住宅	個人	確認調査	
辻ノ尾遺跡	志佐町浦免808番地	倉庫建設	松浦市	慎重工事	
22	今福遺跡	今福町弘坂免	道路建設	国土交通省	発掘調査
	辻ノ尾遺跡	志佐町浦免808番地	体育館建設	松浦市	確認調査
	板橋経塚	御厨町板橋免教塚	地籍調査	松浦市	慎重工事
	辻ノ尾遺跡	志佐町浦免738番地1	校舎改築	長崎県	慎重工事
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	排土置き場	長崎県	慎重工事
	鷹島海底遺跡	鷹島町三里免2153番地	護岸建設	長崎県	慎重工事
	ぎぎが浜遺跡	今福町北免670番地	携帯電話基地局建設	N T T	確認調査
栢ノ木遺跡	志佐町庄野免802番地2他	範囲確認調査	松浦市	確認調査	
23	八幡山城跡	今福町東免	道路建設	国土交通省	慎重工事
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	排土置き場	長崎県	慎重工事
	今福遺跡	今福町弘坂免	道路建設	国土交通省	発掘調査
	ぎぎが浜遺跡	今福町北免前田他	地籍調査	松浦市	慎重工事
	北平遺跡	今福町北免北平	地籍調査	松浦市	慎重工事
	海場遺跡	今福町北免上湯場他	地籍調査	松浦市	慎重工事
	辻ノ尾遺跡	志佐町浦免808番地	体育館建設	松浦市	慎重工事
	栢ノ木遺跡	志佐町庄野免769番地2他	範囲確認調査	松浦市	確認調査
	辻ノ尾遺跡（隣接地）	志佐町里免530番地1他	宅地造成	個人	試掘調査
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	道路建設	国土交通省	慎重工事

表1 平成21年度から平成23年度の法第93条・法第94条関係届出等一覧表

第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

長崎県本土の北端に位置する松浦市は九州島の西北部、北松浦半島の北部に位置し、黒島・鷹島・福島・飛島・青島などの島々から構成される。市域は南に山麓、北に海域に接する「南高北底」の地勢を呈する。この山麓が県・市境となり西側を平戸市、南側を佐世保市、東側を佐賀県伊万里市と接する東西に長い市域である。県境は国見山（776m）を最高峰に、八天岳から隠居岳と南北に続き、北と西に標高を下げながら海へ没する。

市域の地形は、溶岩台地・第三紀層・沖積層・洪積層と大きく4つに分類される。まず、玄武岩の溶岩台地が山麓に展開する。この台地は北松浦半島全域を覆い、北松浦玄武岩としてキャップロック構造を呈する。次に第三紀（佐世保層群・福井層）層は、緩やかな起伏をもつ砂岩や泥岩で堆積し市域の基盤を形成するが、主に山麓に展開する。北松浦半島一帯は北松炭田として昭和30（1950）年代に栄えたが、炭田は狭炭層を含む第三紀層と砂礫層の互層から形成されているため、一方で地すべりの多発地帯でもある。これは「北松型地すべり」と呼称されているが、キャップロック状に玄武岩が一帯を覆っているため、降雨時は不整合に覆う砂礫層との間に貯留層となり誘発している。そして沖積層は、志佐川（約11.5km）流域で最も展開がみられるが、今福川（約1.8km）流域において確認できる。しかし、流域に沿った細長い様相を呈し河口では三角江を形成するものの、市全域で平地は限られる。これらの河川は、上流から下流までの長さが短く急傾斜地を流れる。そのため、第三紀層を削り幾度となく氾濫している。洪積層（段丘）は志佐川流域にて展開が確認できる。市域の北側の海域に位置する鷹島・福島等の島々の地質は、玄武岩と第三紀層に分類される。

2. 歴史的環境

本市の歴史は旧石器時代より人々が活動した痕跡がうかがえる。ここでは時代ごとに述べる。

旧石器時代は46箇所の遺物散布地が確認される。これまでナイフ形石器などが各遺跡より出土し、後期旧石器時代に比定される。市域西部に位置する田口高野遺跡はA T火山灰が確認され、台形石器やナイフ形石器が出土する。しかし、本市の地形的要因の作用が強いため、二次堆積などより出土する例が多く、遺物包含層が検出されていない。このため、その確認が課題である。

縄文時代は94箇所が市全域において確認される。田口高野遺跡は鬼界アカホヤ火山灰が確認される。下谷遺跡は21基のドングリ貯蔵穴跡や土坑跡が確認される。また、鈴桶型石刃技法より産出された腰岳産黒曜石製品が多数確認されている。鷹島海底遺跡で早期前葉の押型文土器、宮ノ下り遺跡で晩期、今福遺跡で後・晩期の土器が出土するが、遺物包含層の検出は限られる。

弥生時代から古代の遺跡の数は限られるが、これは、河川域とそこに展開する沖積地やその周辺に生産基盤を求めた結果と捉えられる。弥生時代は市域中心部に位置する志佐川流域で、栢ノ木遺跡が前期後半頃に甕棺墓・石棺墓の墓域を形成し、後期前半には内行花文鏡やガラス玉を持つ集団と形成

がうかがえる。また、対岸に位置する久保園遺跡は、中期の甕棺墓が確認される。市域西部に位置する池田遺跡は、中期の甕棺墓が確認されている。市域東部に位置する今福川流域の中ノ瀬遺跡では中期の円形住居跡で確認され、丘陵上に集落が営んだことが確認される。

古墳時代は市域西部に小嶋古墳群、福島の高島古墳や小島古墳、鷹島の薫崎鬼塚古墳や宝ヶ峯1号から3号墳が築造される。いずれも横穴式石室を用いる円墳で、後期古墳に位置づけられる。一方、集落は宮ノ下り遺跡より4世紀後半～5世紀代の竪穴式住居跡、栢ノ木遺跡より6世紀後半、今福遺跡で4世紀初頭頃と6世紀後半の土師器や須恵器が出土する。

古代は明確な遺構は確認されていないものの宮ノ下り遺跡・久保園遺跡・今福遺跡より、緑釉陶器碗や越州窯系青磁碗が出土する。今後の調査において、明確な遺跡の位置づけが求められる。

中世は市域中心部に位置する楼楷田遺跡で12世紀頃の墓壇や掘立柱建物跡が確認され、出土遺物より人々の往来がうかがえる。今福川流域の中ノ瀬遺跡で木棺墓や土壇墓、対岸の今福遺跡で11世紀後半から14世紀中頃の土師器、中国産や朝鮮産の貿易陶磁器などが出土する。城館跡は市全域に展開する。志佐川流域では陣内城跡が築かれる。市域東部に位置する史跡松浦党梶谷城跡は標高約197mの城山山頂部に楕円状に主郭を設け、外周に段築と石垣からなる山城跡である。石垣の構築技法などから豊臣政権の文禄・慶長の役に伴う改築様相を示す。遺物の主体は15世紀後半から17世紀前半の陶磁器類が確認される。また、同じく市域東部に位置する八幡山城跡は、大きく北部の区域（北城）と南部の区域（南城）に分かれる。遺構は尾根筋を取り囲む切岸が配置される特異な構造を呈する。北部の区域は出土遺物より、15世紀から16世紀後半頃に位置付けられる。一方、南部の区域は曲輪・切岸を中心とした一般的な形態を呈し、同一丘陵上で構造の違う城郭跡が確認されている。鷹島海底遺跡は文献資料と考古資料が一致し、海底とシルト質の土壤に堆積した自然的条件などにより良好な状況で保たれた稀有な事象及び歴史的・軍事史的にも貴重な資料を提供する遺跡である。

近世は集落や近世墓が楼楷田遺跡・池田遺跡・中ノ瀬遺跡、生産遺跡が松浦皿山窯跡で確認される。市域は平戸藩領に属するが、平戸－伊万里間に平戸街道御厨筋の設置、今福では寛永十二（1635）年に分地、寛政二（1790）年に押役所の設置など、藩の重要な機関及び交通の要所として認識される。産業では干拓や寛延二（1749）年に赤岩炭坑の採掘が行われ、人口の増加が確認できるものの、自然災害も頻発した記録が残る。

近・現代は明治4（1871）年の廃藩置県により平戸県、同年に長崎県、郡制施行で北松浦郡の管轄となる。この時期も炭坑採掘・干拓が継続して行われるが、炭鉱はエネルギー革命の影響を受けて昭和42（1967）年を最後に市域全ての炭坑が閉山している。そして、平成18（2006）年1月1日に松浦市・北松浦郡鷹島町・同郡福島町を廃して「松浦市」が設置される。

第Ⅲ章 平成21年度確認・試掘調査の概要

平成21年度に確認・試掘調査を実施した田口高野遺跡5次、久保園遺跡7次、宮ノ下り遺跡7次について概説する。

1. 田口高野遺跡5次 (第2図～第5図 表2・表4 図版1～図版4)

立地

本遺跡は松浦市の西部、御厨町西木場免の標高35mから40mの玄武岩台地上に立地する。本遺跡の東側にはドングリ貯蔵穴と鈴桶型石刃技法による多量の剥片が確認された下谷遺跡が立地する。

調査

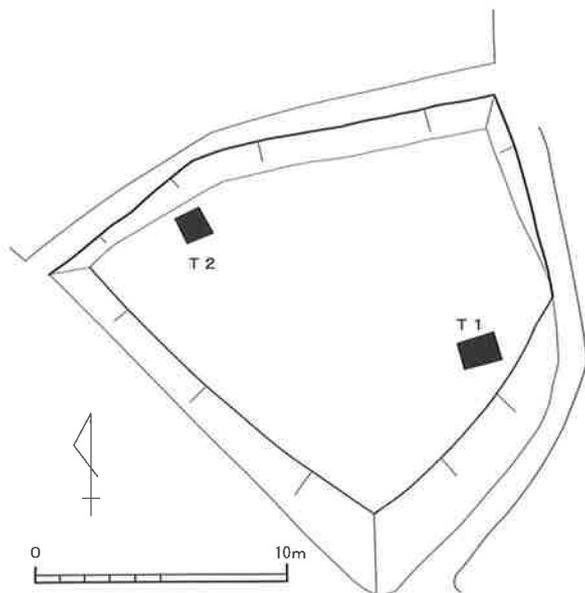
8月18日付にて個人住宅の宅地造成の届出を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため範囲確認調査を実施した。調査区(T)の設定は、建設予定地の2箇所に設け、T1は2m×3mの6m²、T2は2m×2mの4m²を設定し、計10m²を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構

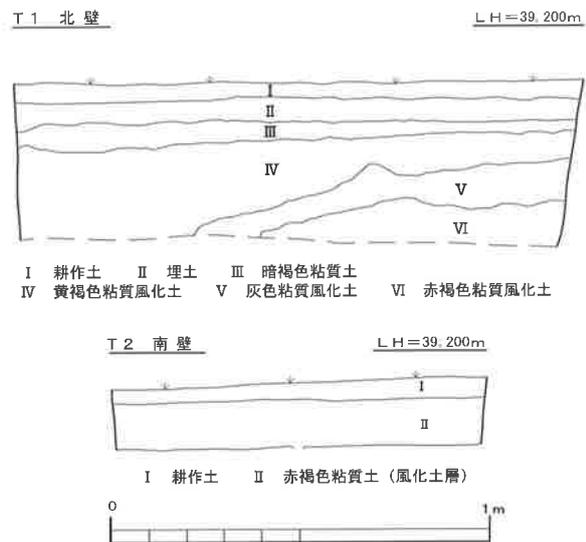
T1は耕作土・埋土を取り除くと粘性の風化土を、T2は耕作土を取り除くと黄褐色や赤褐色の風化土が確認したものの各調査区より遺構は認められなかった。



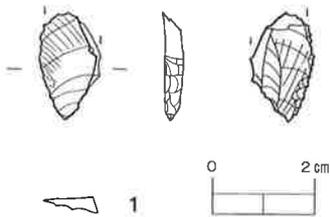
第2図 田口高野遺跡5次位置図 (1/10,000)



第3図 5次調査区設定図 (1/600)



第4図 5次調査区土層図 (1/40)



出土遺物

1は刃部が欠損する黒曜石製のナイフ形石器である。

第5図 5次調査区出土遺物
(2/3)

2. 久保園遺跡7次 (第6図～第9図 表2・表4・表6 図版5～図版12)

立地

本遺跡は松浦市の中心部を流れる志佐川に沿って南北に延びた河岸段丘の北端に位置する。標高は10mから15mの中位河岸段丘上に立地する。

調査

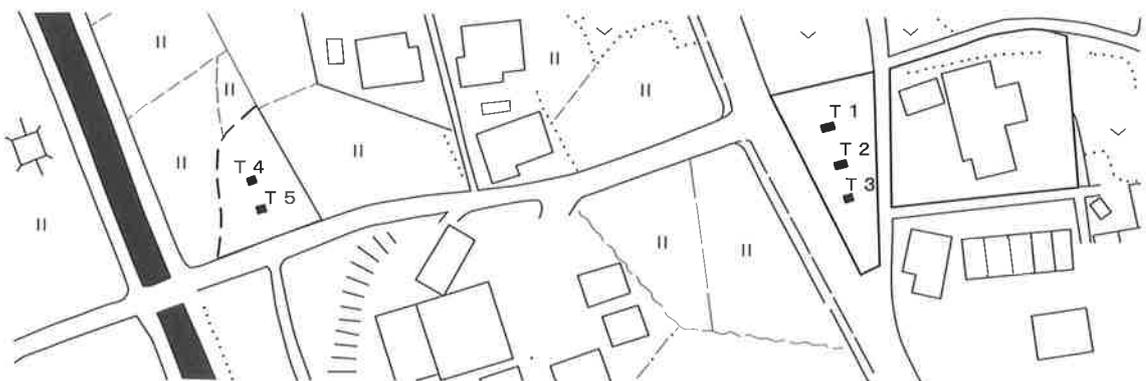
6月17日付にて共同住宅建設、7月21日付にて駐車場建設の届出を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地内であるため範囲確認調査を実施した。調査区(T)の設定は2地点に分かれ、T1・T2は2m×3mの6㎡、T3からT5は2m×2mの4㎡の5箇所を設定し、計24㎡を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構

T1からT3は耕作土を取り除くと粘質土のⅢ層を確認した。T1・T2のⅣ層より柱穴跡を確認したが、プランも定かでない。T4とT5は耕作土・床土を取り除くと黒褐色粘質土のⅢ層と礫が混入するⅣ層を確認した。これらの層は、遺物包含層として確認した。



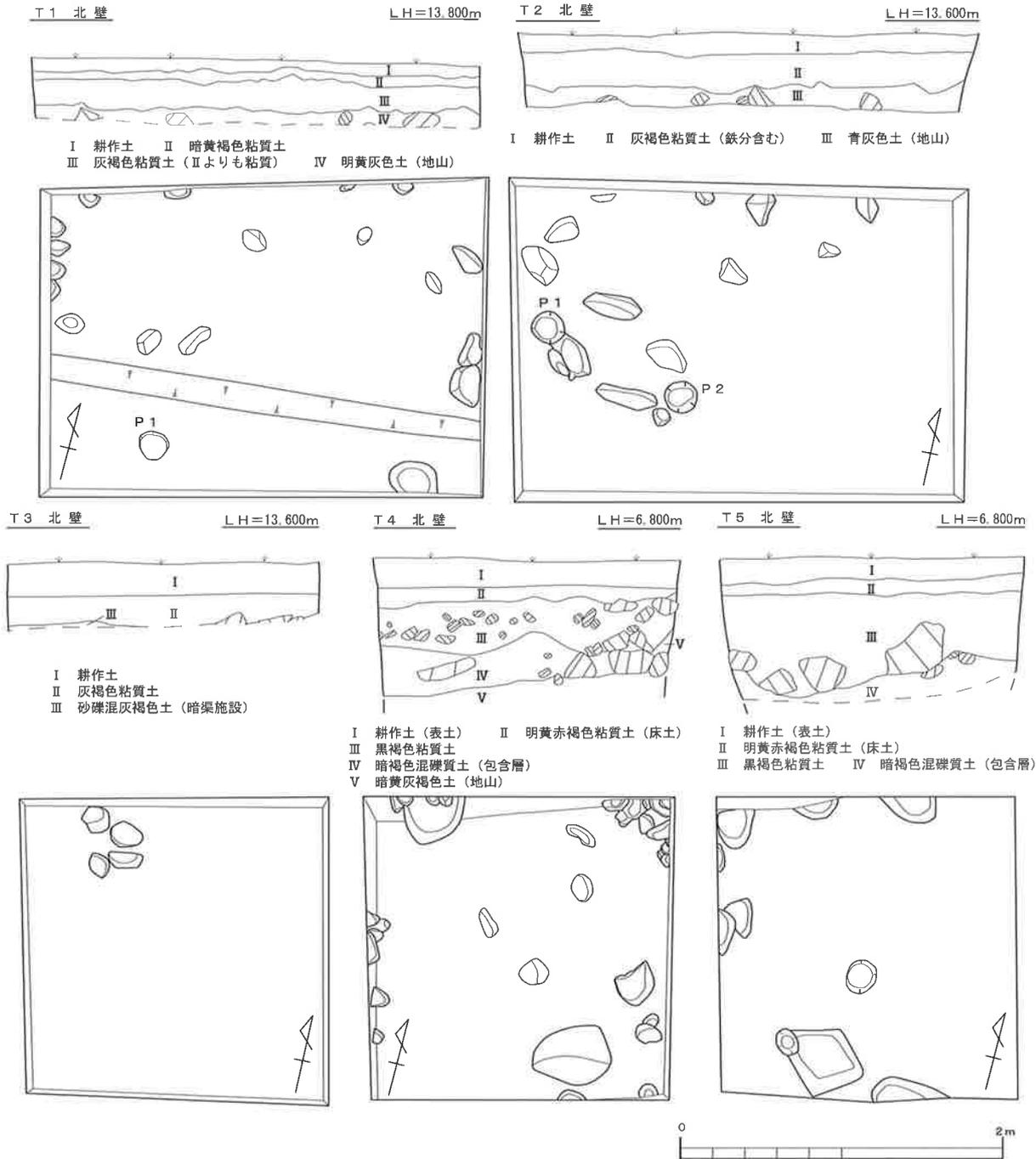
第6図 久保園遺跡7次位置図 (1/10,000)



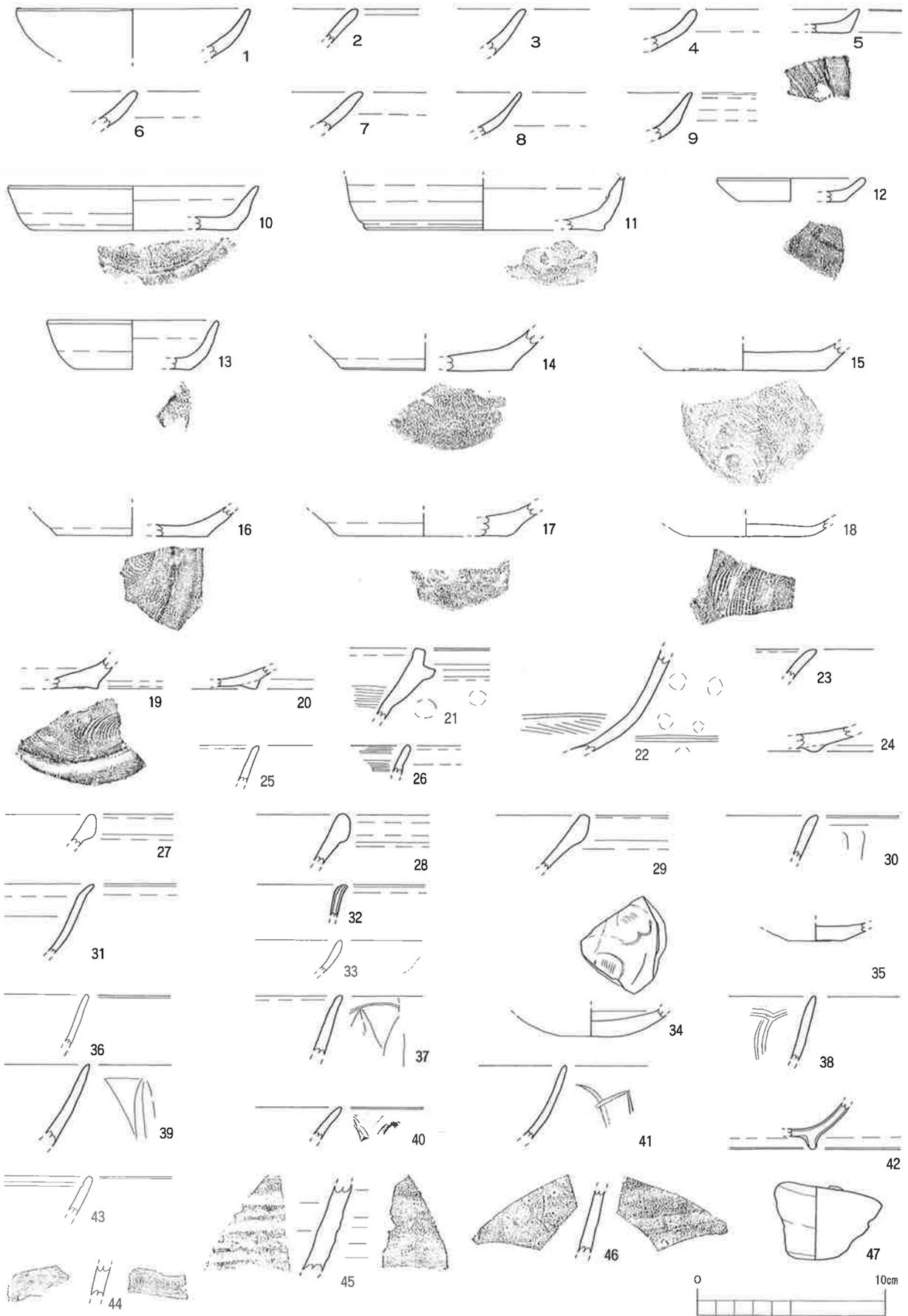
第7図 7次調査区設定図 (1/2,000)

出土遺物

1~4・6~11・13~17・19は口縁部が残存する土師器の坏である。色調は橙色が大半を占める。5・12・18は土師器の小皿である。外底は回転糸切りが施される。20は断面が逆三角形の高台部が残存する土師器の碗である。21は口縁部から胴部が、22は胴部が残存する鋳付の土鍋である。鋳の断面は方形を呈し、胴部内・外面の調整はハケを施す。23・24は黒色土器の碗である。25・26は瓦器の碗である。内面に暗文が認められる。27~32は白磁の碗である。33~35は白磁の皿である。36~39・41は龍泉窯系青磁の碗である。40・42は龍泉窯系青磁の坏である。43は高麗青磁の碗である。44は高麗



第8図 7次調査区平面図・土層図 (1/40)



第9図 7次調査区出土遺物 (1/3)

陶器で、小片のため部位は不明である。**45**は中国産と考えられる陶器で、小片のため部位は不明である。内・外面は回転ナデ形成が認められ、内面に透明釉が施される。**46**は朝鮮産と考えられる陶器で、小片のため部位は不明である。内・外面に水挽き技法が認められ、外面は施釉、内面は露胎が認められる。**47**は上面の一部が欠損する窯道具である。上面には釉の付着は認められず、上面以外でガラス質状を呈する。

3. 宮ノ下り遺跡7次 (第10図～第13図 表2・表4 図版13～図版16)

立地

本遺跡は松浦市の中心部を北流する志佐川の右岸、森野川両岸の水田部に位置する。これらの河川は、河道が分流して二又川となっていたと推測される。標高は4 mから5 mの中州状の微高地に立地する。

調査

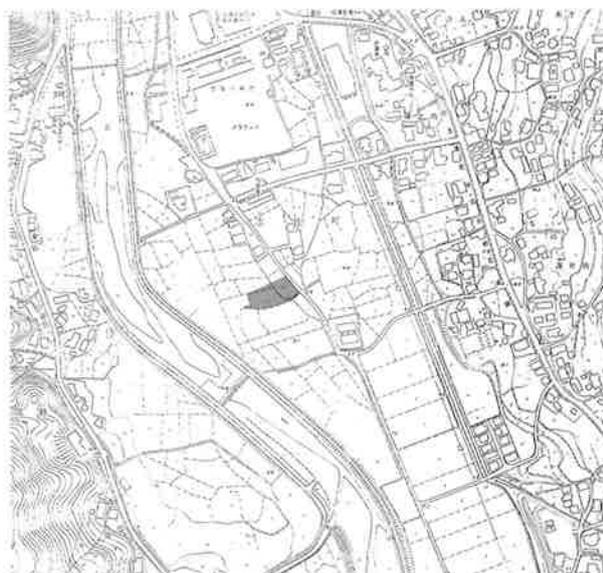
2月9日付にて共同住宅建設工事の届出を受けて、範囲確認調査を実施した。調査区(T)は森野川を挟んだ2地点に分かれ、2 m×3 mの6 m²を9箇所を設定し、計54 m²を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構

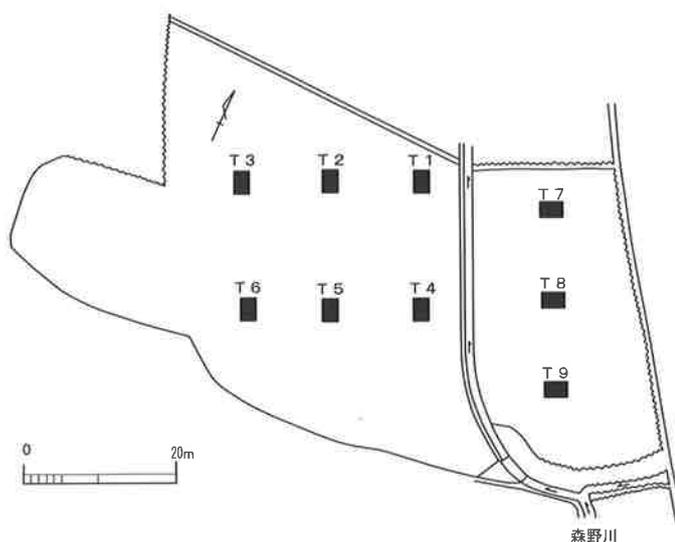
T1からT3は耕作土・埋土を取り除くと、粘質土と砂質土の堆積が認められた。T4・T5は耕作土・埋土を取り除くと砂質土・砂礫土、T6は粘質土の堆積が認められた。なお、T4よりプランが定かでない柱穴跡が確認された。T7～T9は耕作土・埋土を取り除くと粘質土が認められた。これらの堆積状況より、粘質土と砂質土の河川による堆積土と考えられる。

出土遺物

1は口縁部から胴部が残存する縄文土器の粗製の深鉢で、器面は粗い条痕が施される。**2**は口縁部が残存する土師器の小皿である。**3**は高台が残存する土師器の埴である。高台は「ハ」字形に広がる。**4**は高台部が残存する白磁の碗、**5**は口縁部に輪花

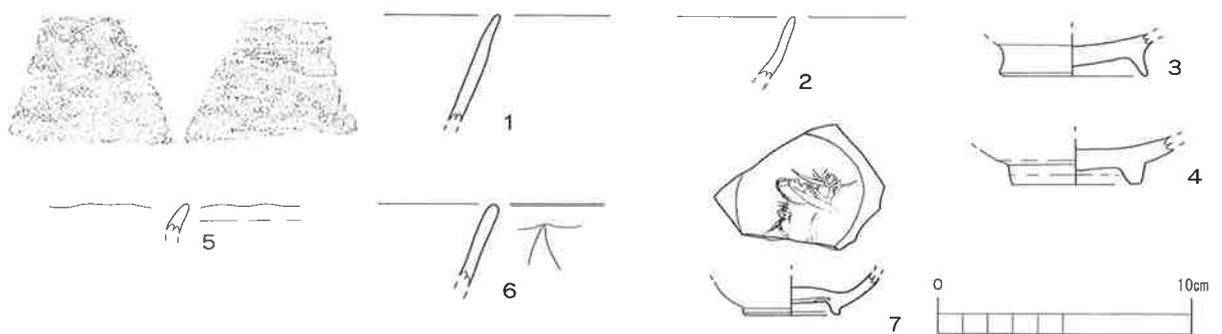
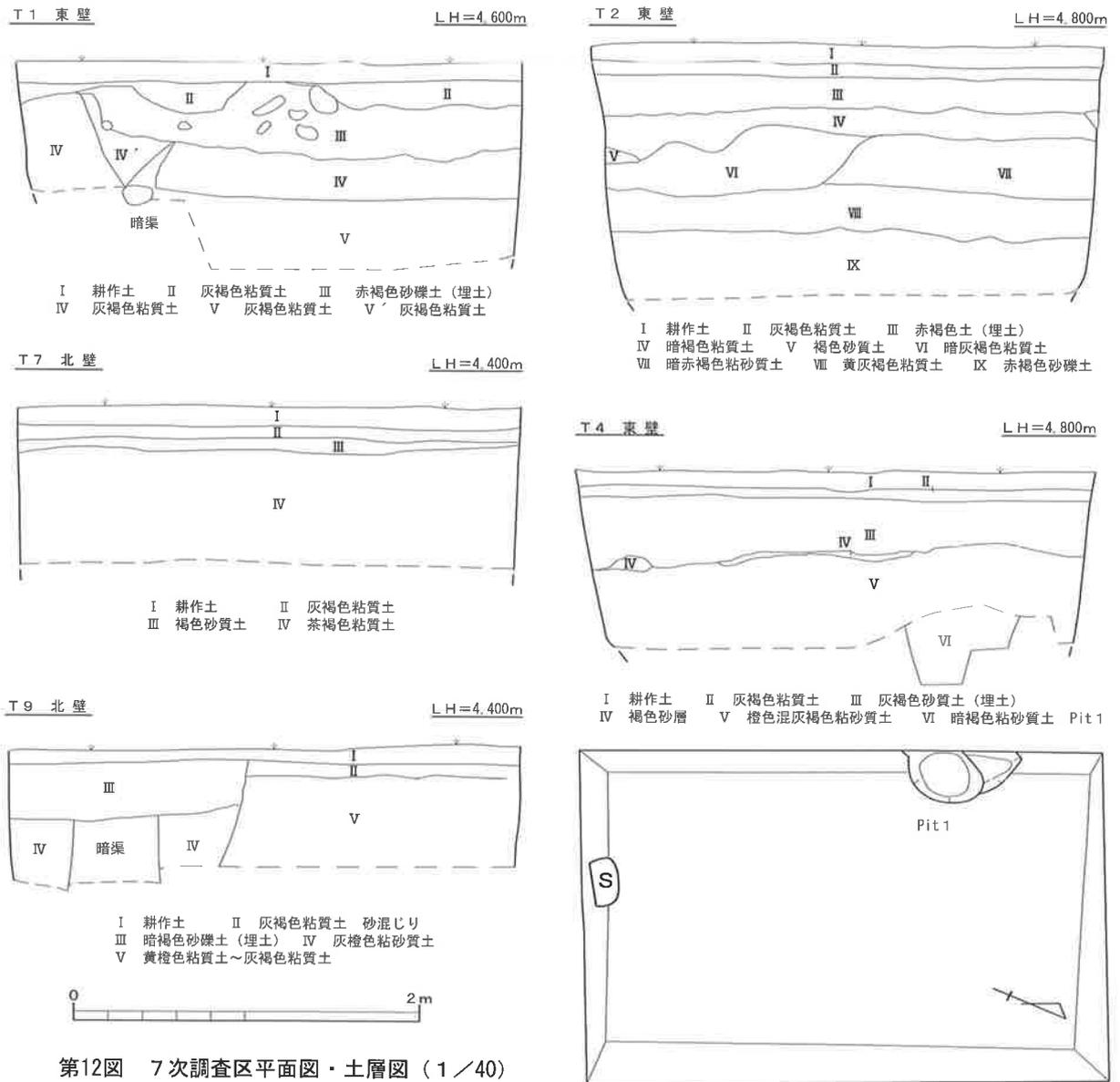


第10図 宮ノ下り遺跡7次位置図 (1/10,000)



第11図 7次調査区設定図 (1/1,000)

が施された白磁の皿である。6は口縁部が残存する龍泉窯系青磁の碗である。7は高台が残存する染付の碗である。



第Ⅳ章 平成22年度確認・試掘調査の概要

平成22年度に確認・試掘調査を実施したぎぎが浜遺跡、辻ノ尾遺跡4次、栢ノ木遺跡24次について概説する。

1. ぎぎが浜遺跡

(第14図～第16図 図版17・図版18)

立地

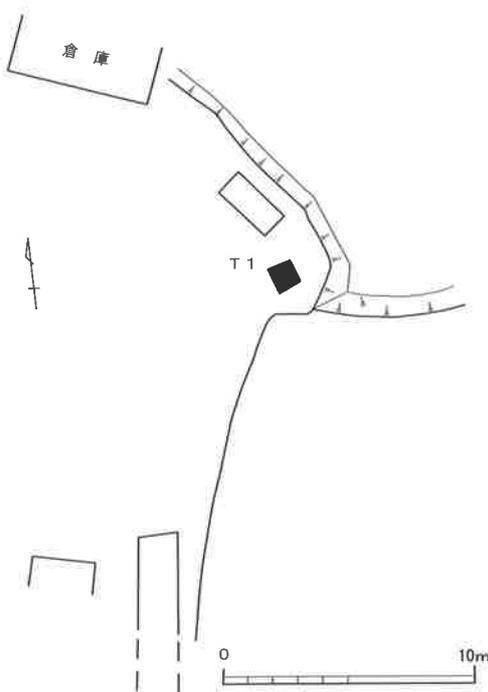
本遺跡は松浦市の東部、金井崎半島の西側の砂浜に位置する。

調査

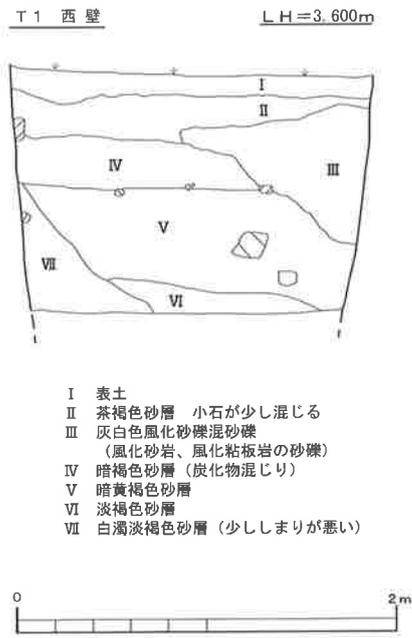
12月27日付にて携帯電話基地局建設の届出を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地内のため範囲確認調査を実施した。調査区(T)は計1箇所にて2m×2mの4m²を設定し、人力掘削による調査を実施した。



第14図 ぎぎが浜遺跡位置図 (1/10,000)



第15図 調査区設定図 (1/600)



第16図 調査区土層図 (1/40)

検出遺構

表土を取り除くと砂礫層と砂層の堆積が認められたが、遺構は認められなかった。

出土遺物

遺物の出土は確認できなかった。

2. 辻ノ尾遺跡4次

(第17図・第18図 表4 図版19・図版20)

立地

本遺跡は市中心部の洪積台地上に位置し、標高10mから25mに立地する。

調査

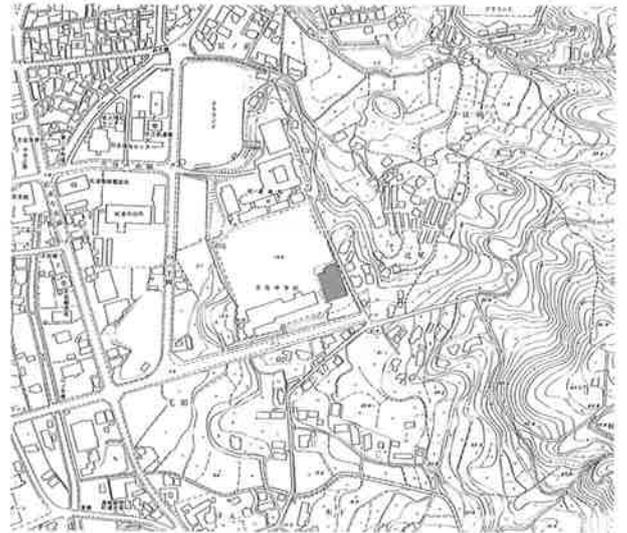
12月24日付にて松浦市立志佐中学校屋内運動場建て替え工事の通知を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地内のため範囲確認調査を実施した。調査区(T)は建設予定地内に2m×3mの6m²を10箇所を設定し、計60m²を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構

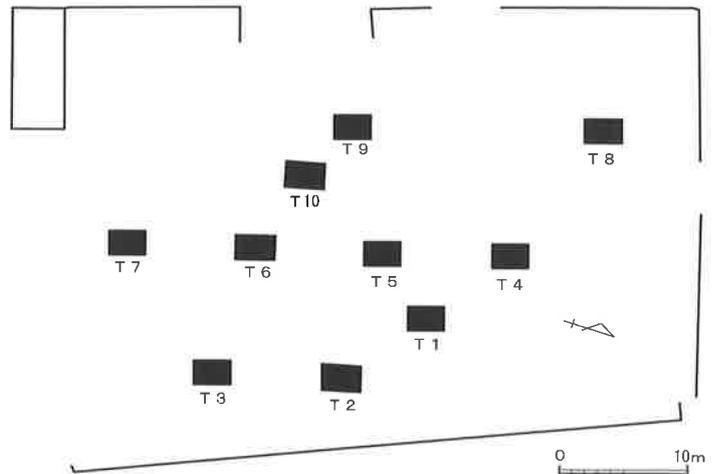
遺構は確認できなかった。

出土遺物

黒曜石製剥片、近代土製品が出土した。



第17図 辻ノ尾遺跡4次位置図(1/10,000)



第18図 4次調査区設定図(1/600)

3. 栢ノ木遺跡24次(第19図～第22図 表2～表4 図版21～図版27・図版35)

立地

本遺跡は松浦市の中心部に位置し、志佐川下流域左岸の標高6mから32mに位置し、北流する志佐川によって形成された沖積地と、志佐川に注ぐ支流である佐々山川と庄野川によって形成された河岸段丘上に立地する。調査地点は庄野川右岸に位置する。



第19図 栢ノ木遺跡24次位置図(1/10,000)

調査

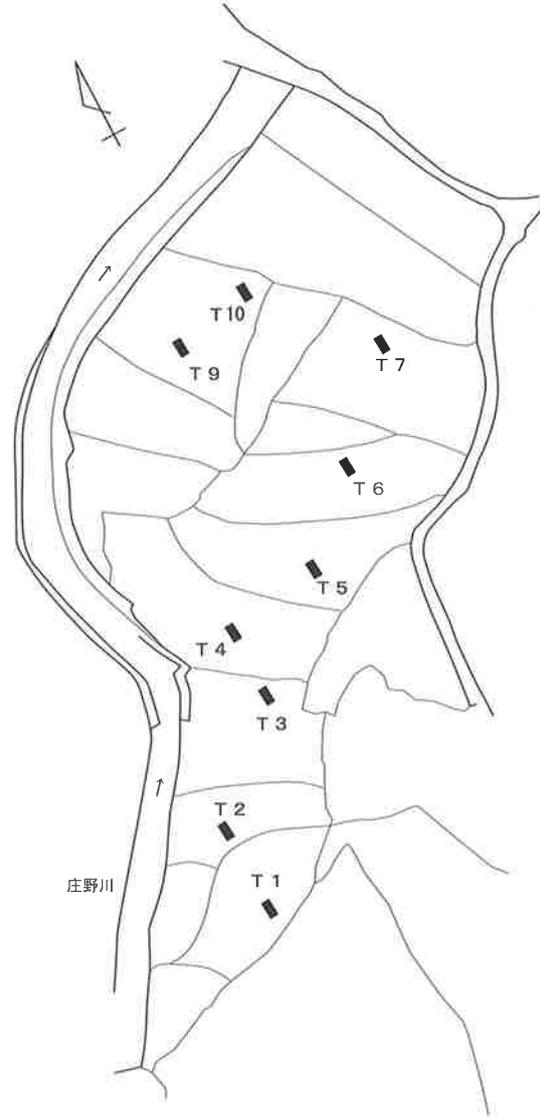
調査区 (T) は 2 m × 4 m の 8 m² を 9 箇所設定し、計 72 m² を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構

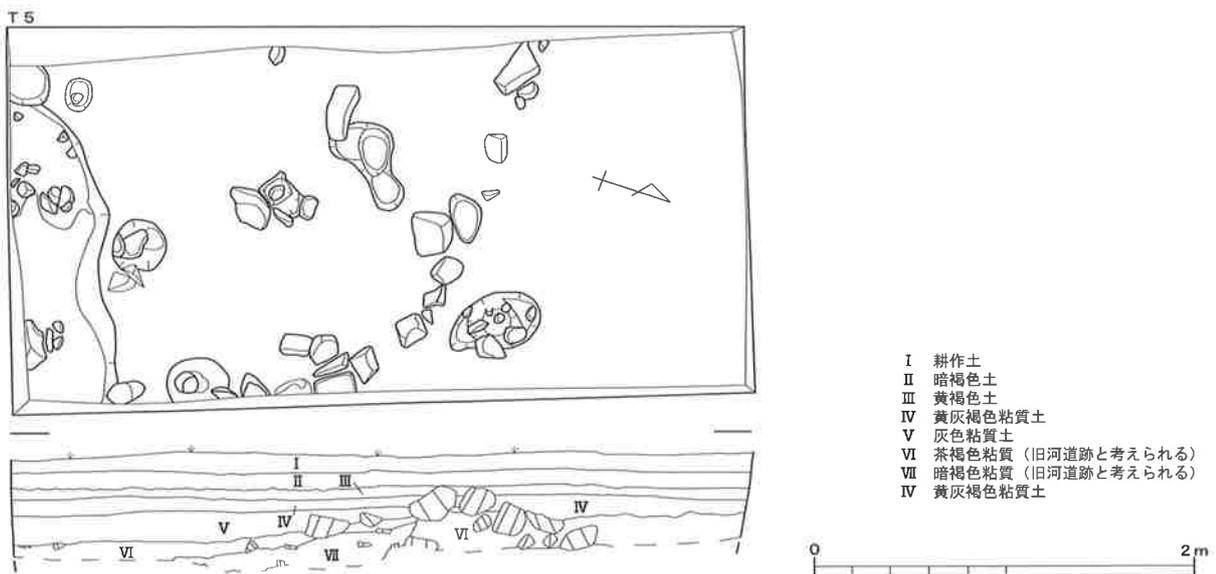
T 1 から T 4 ・ T 7 ・ T 9 ・ T 10 では、明確な遺構は確認できなかった。T 5 は柱穴跡と落ち込み、T 6 は柱穴跡が検出された。

出土遺物

1 は口縁部から胴部が残存する弥生土器の甕である。胴部外面はタテハケが認められる。2 は口縁部から胴部が残存する弥生土器の甕である。口唇部は上方を向く。3 は上げ底状を呈する弥生土器の甕底部である。4 は底部が残存する弥生土器の壺である。5 は外面に四条の横走る沈線、内面はナデが施される弥生土器の器台胴部である。6 は須恵器の甕と考えられる。7 は口縁部が残存する東播磨系須恵器の捏鉢である。8 は白磁の碗である。9 は高台部が残存する白磁の碗である。見込みの釉は、環状に掻き取る。10 は白磁の皿である。11 は口縁部が残存する同安窯系青磁の碗である。12 は同安窯系青磁の皿である。13 は口縁部が残存する高麗系青磁の碗である。14 は陶器で、形状より碗又は貯蔵具と考えられ

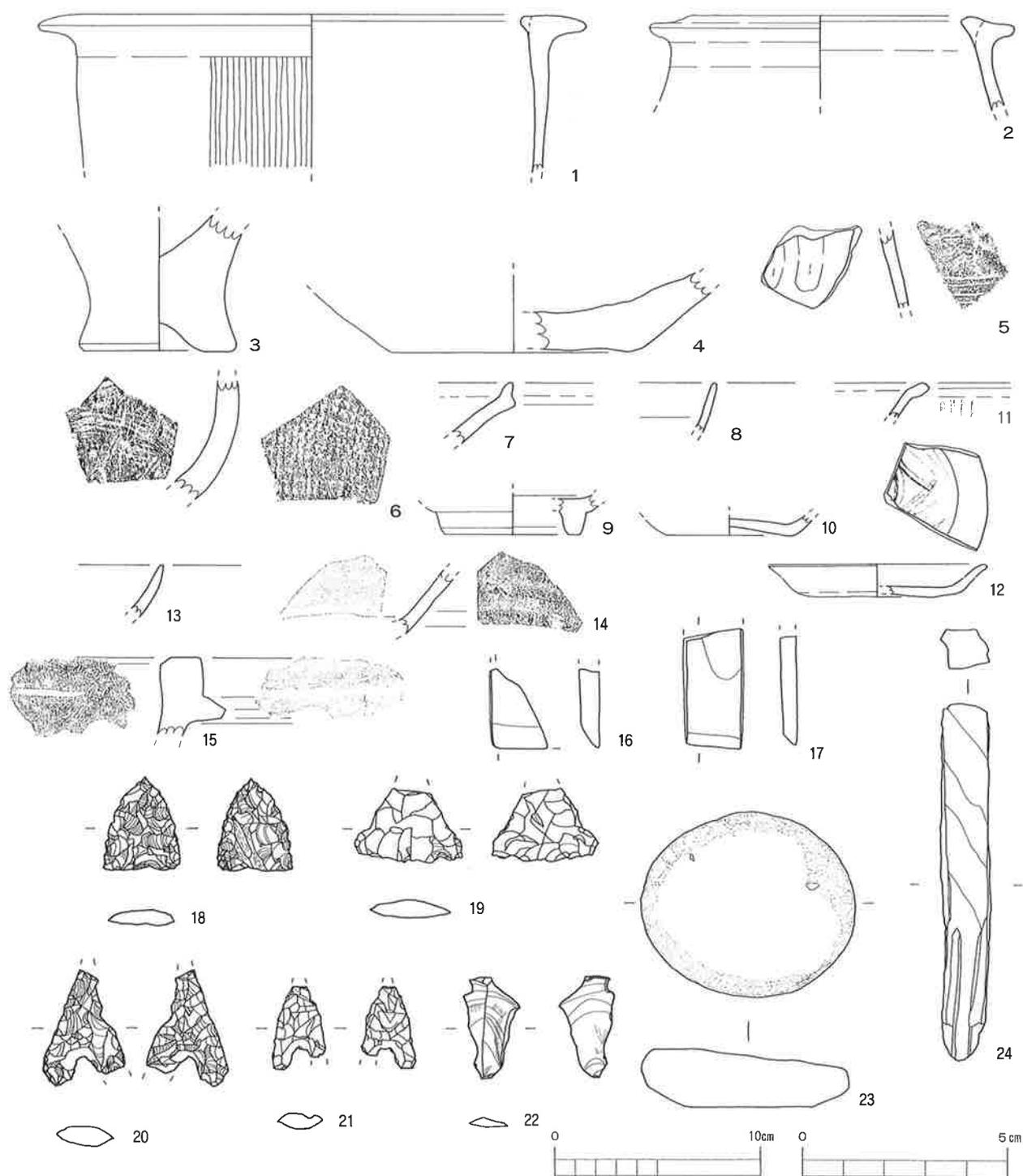


第20図 24次調査区設定図 (1/4,000)



第21図 24次調査区平面図・土層図 (1/40)

る。15は滑石製品で、鏝付型石鍋である。ススの付着は、鏝の平坦部まで認められる。16・17は頁岩製の扁平片刃石斧である。18は黒曜石製の無茎の石鏃である。19は黒曜石製の無茎の石鏃である。20は黒曜石製の凹基式の石鏃である。21は安山岩製の凹基式の石鏃である。22は黒曜石製の二次加工剥片である。上端には抉りが認められる。23は玄武岩製の磨石である。器面に使用擦過痕が認められる。24は木製品で、器種は不明である。一面に加工痕が認められる。



第22図 24次調査区出土遺物 (1~17・23・24は1/3、18~22は2/3)

第V章 平成23年度確認・試掘調査の概要

平成23年度の国庫補助を受けて確認・試掘調査を実施した栢ノ木遺跡25次、辻ノ尾遺跡（隣接地）について概説する。

1. 栢ノ木遺跡25次（第23図～第28図 表3～表5・表7 図版28～図版35）

立地

本遺跡は松浦市の中心部に位置し、志佐川下流域左岸の標高6mから32mの沖積地に立地する。調査地点は庄野川右岸に位置し、本遺跡範囲の北域にあたる。

調査

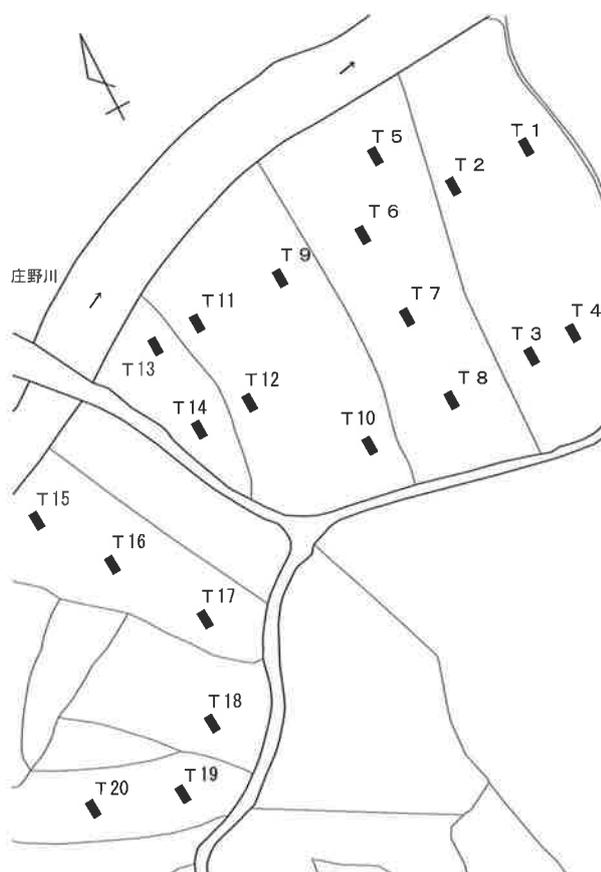
本年度の調査は24次調査に引き続き、遺跡範囲を確認するため実施した。調査地点は24次調査地点より北東側と24次調査地点で確認された遺構の詳細の把握が目的である。調査区（T）は2m×4mの8m²を20箇所設定し、計160m²を人力掘削による調査を実施した。

検出遺構

T1からT4は旧水田とそれに伴う遺構と洪水による堆積層が認められ、出土遺物より近世以降に位置付けられる。T5からT13・T15・T16は耕作土・床土・旧水田を取り除くと湧水が激しく、掘削深度が捗らなかった。これらの旧水田は砂質土で、河川の堆積土を利用した耕作地が展開していたことが考えられる。T14・T17からT20は旧河道跡と考えられる有機物を含む堆積層、砂層と粘質土層の葉理が認められる。それらはT14がⅧ層、T17はⅦ層、T18はⅦ層からⅨ層、T19はⅦ層からⅩ層にあたる。T20は耕作土・床土・旧水田を取り除くと礫層が認められ、調査区北側でトレンチ掘削による下層の確認を行って、地山と判断した。



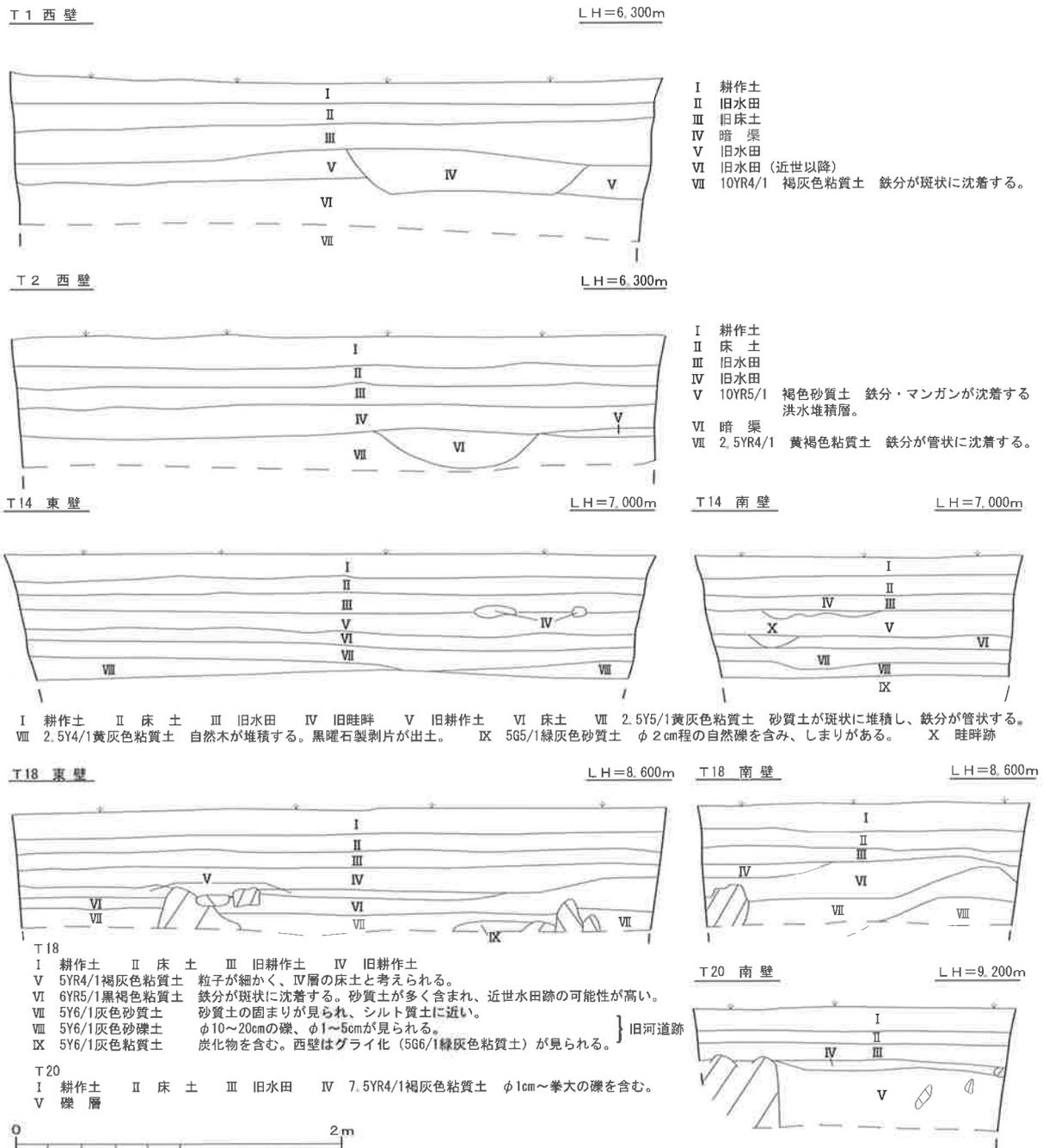
第23図 栢ノ木遺跡25次位置図（1/10,000）



第24図 25次調査区設定図（1/4,000）

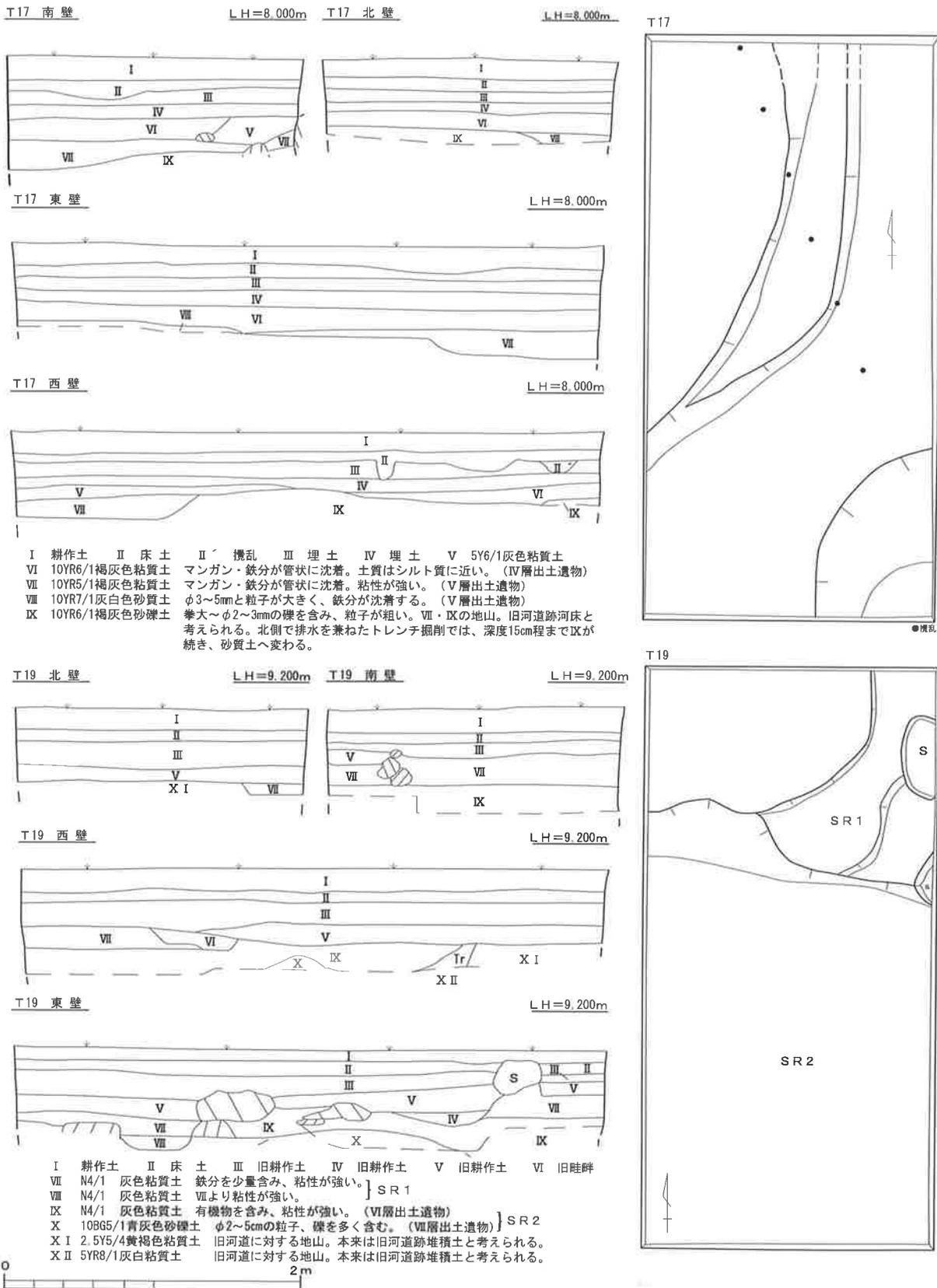
出土遺物

1は底部から体部への立ち上がりが残存する土師器の壺である。内・外面は摩滅が著しいが、外底は回転ヘラ切りの痕跡がうかがえる。2は口縁部が丸い須恵器の蓋である。天井部は回転ヘラ切り後、不定方向のナデが施される。3は口唇部にキザミが施される弥生土器の甕である。4は口唇部にキザミが施される弥生土器の甕である。5は弥生土器の甕である。6は断面が隅丸方形の突帯を口唇部に貼り付けた弥生土器の壺である。7は低い上げ底を呈する弥生土器の底部である。8は低い上げ底状を呈する弥生土器の底部である。9は穿孔が2箇所認められる玄武岩製の石包丁である。穿孔は表・



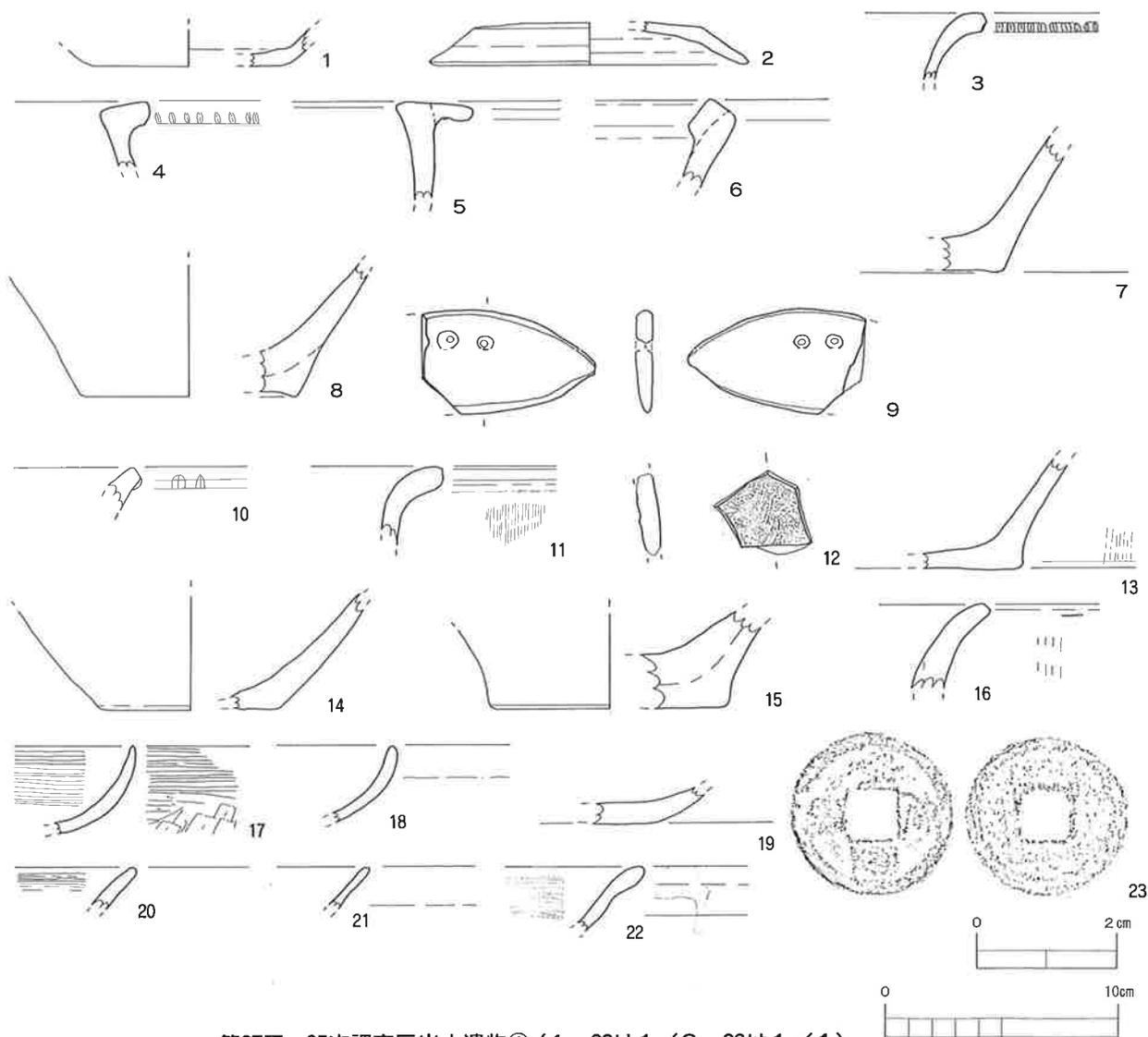
第25図 25次調査区土層図① (1/40)

裏面から施され、刃部は片刃である。10は口唇部に刻み目を施す弥生土器の甕である。11は如意形口

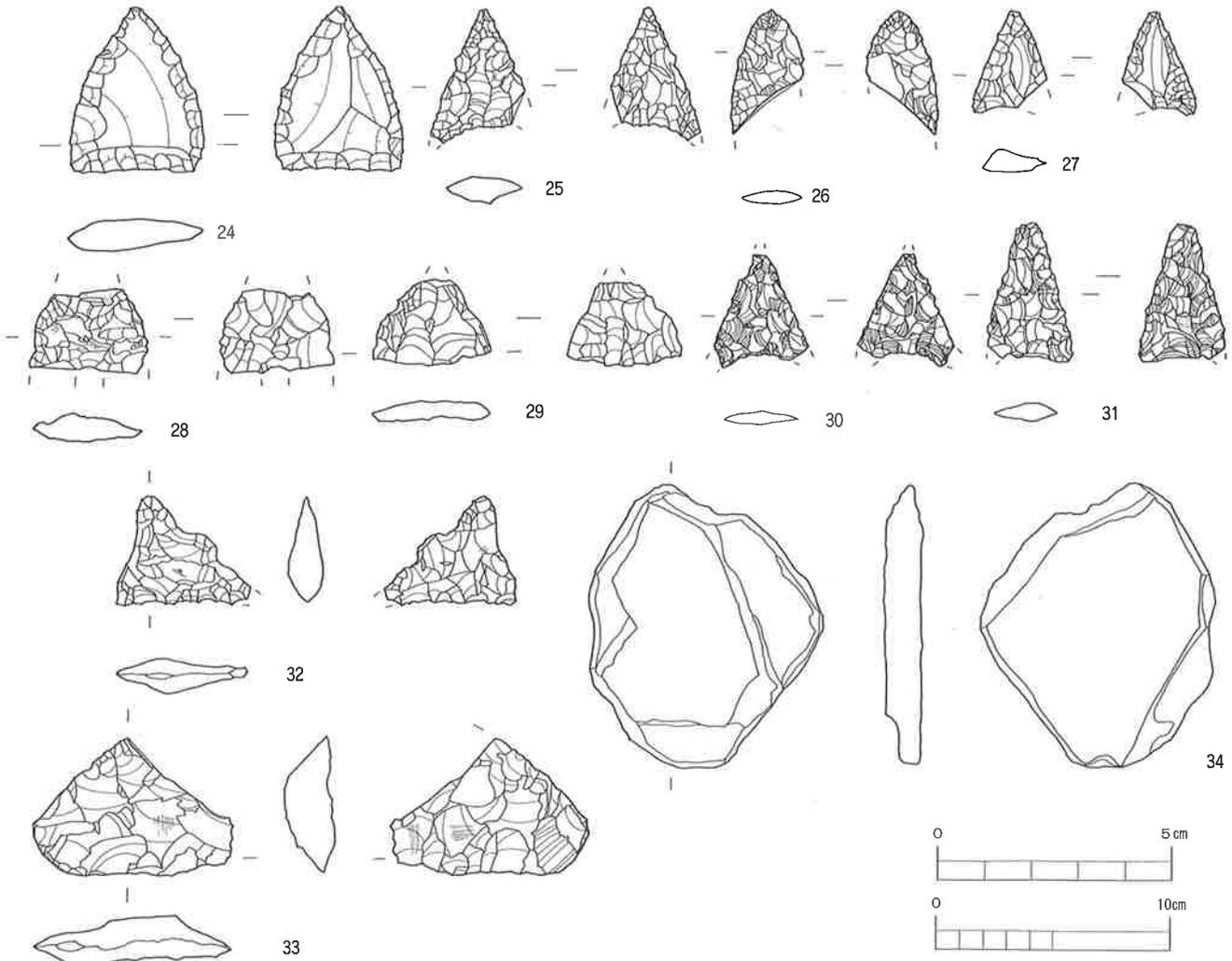


第26図 25次調査区平面図・土層図② (1/40)

縁を呈する弥生土器の甕である。12は器面に貝殻施文が認められる土器片で、弥生土器の壺と考えられる。13は平底の弥生土器の底部である。調整は外面がタテハケを施すが、器面擦過により僅かに認められる。14は平底の弥生土器の底部である。15は平底の弥生土器の底部で、断面観察により接合状況が認められる。器壁は厚い。16は土師器の甕である。17は土師器の碗である。調整は内面が横方向のミガキ、外面が口縁部に横方向のミガキ、体部が横方向と縦方向のケズリが施される。18は土師器の碗である。19は土師器の壺の底部で、黒斑が認められる。20は土師器の壺又は埴の口縁部である。21は瓦器の碗である。22は近世陶器の鉢である。23は元豊通寶である。24は安山岩製の石鏃である。大型の部類に含まれ、縁辺のみ剥離調整が認められる。25~31は黒曜石製の凹基式と無茎式の石鏃である。32は赤チャート製の小型のスクレイパーである。33は一部を欠損する黒曜石製のスクレイパーである。34は結晶片岩である。この石材は本遺跡周辺で産出されない石材であるため、搬入品と考えられる。用途は土器混和材として用いたと推測される。



第27図 25次調査区出土遺物① (1~22は1/3、23は1/1)



第28図 25次調査区出土遺物② (24~33は2/3、34は1/3)

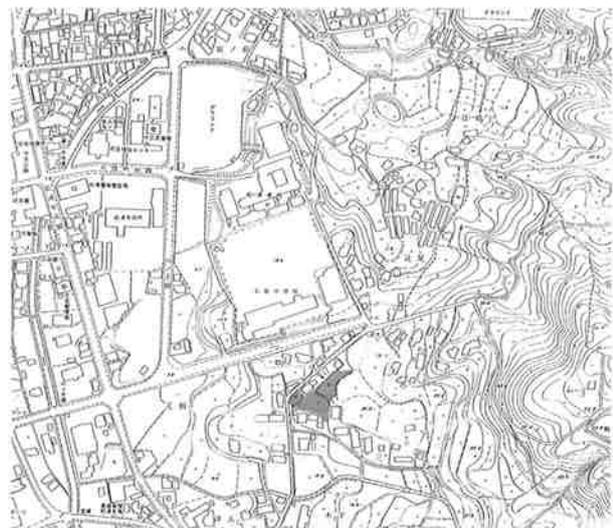
2. 辻ノ尾遺跡 (隣接地) (第29図~第32図 表3・表5 図版36~図版40)

立地

本遺跡は松浦市の中心部の洪積台地上に位置する。標高10mから25mに立地する。

調査

10月14日に宅地造成計画にあたり遺跡照会があった。当該地は開発行為が予定されたが、未周知であったため、試掘調査を実施した。調査区 (T) は2m×2mの4m²を4箇所設定し、16m²を人力掘削による調査を実施した。



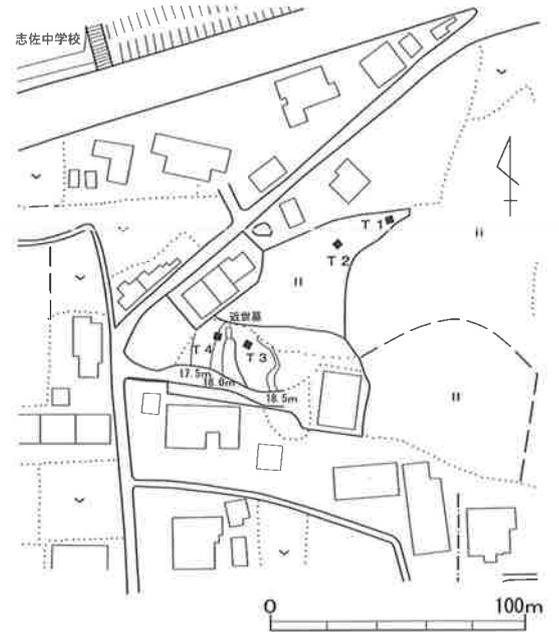
第29図 辻ノ尾遺跡 (隣接地) 位置図 (1/10,000)

検出遺構

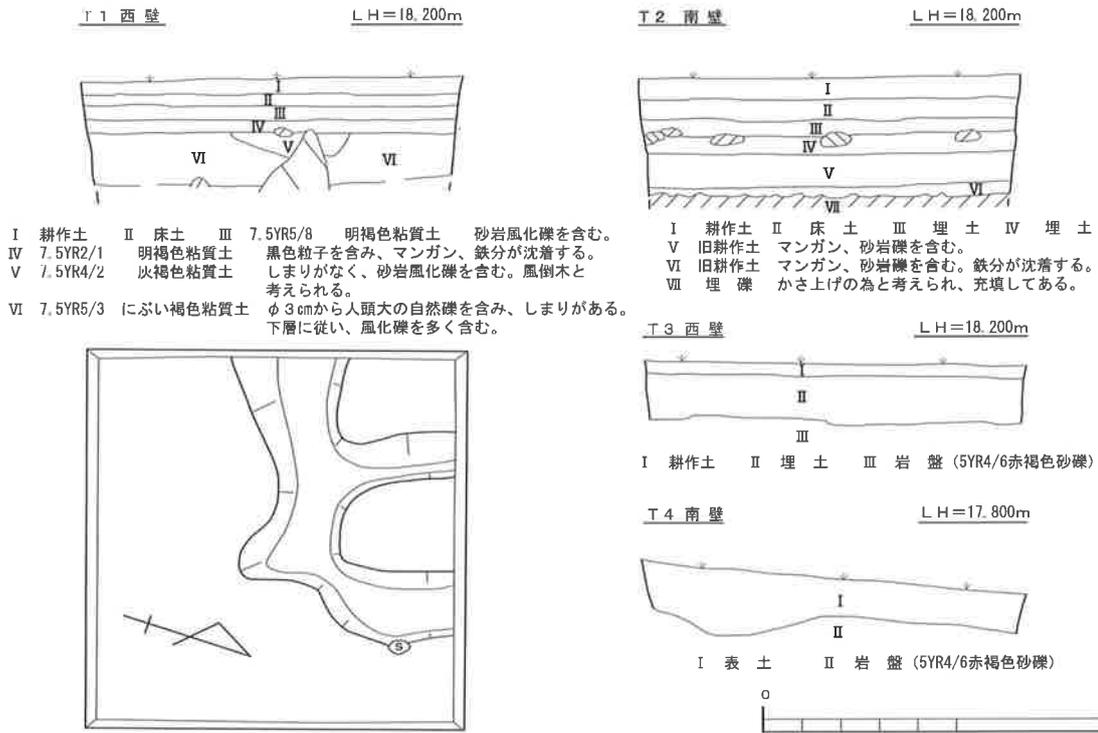
T1は耕作土・床土を取り除くと灰褐色粘質土の不定形プランを確認した。この土質は粘性が認められるもののしまりが弱い。これらより、風倒木と考えられる。T2は旧耕作土と埋礫の確認を行った。旧耕作土のV層は出土遺物より、近世以降と考えられる。T3・T4は岩盤を確認した。

出土遺物

1は口縁部が残存する土師器の皿である。2は口唇部を欠損する周防系の播鉢である。3は口縁部が残存する瓦器の碗である。4は口縁部が残存する陶器の鉢である。施釉は内面・口縁部と体部に認められ、瀬戸・美濃系と考えられる。5は白磁の碗の底部、6は白磁の皿の底部である。



第30図 調査区設定図 (1/3,000)



第31図 調査区平面図・土層図 (1/40)



第32図 調査区出土遺物 (1/3)

第Ⅵ章 まとめ

松浦市では平成7年度から3ヵ年ずつの継続事業として、市内の埋蔵文化財の確認・試掘調査を実施している。今回の報告した遺跡は、平成21年度の田口高野遺跡5次、久保園遺跡7次、宮ノ下り遺跡7次、平成22年度のぎぎが浜遺跡、辻ノ尾遺跡4次、栢ノ木遺跡24次、平成23年度の栢ノ木遺跡25次、辻ノ尾遺跡（隣接地）である。この3ヵ年分の報告で、重要な事項を挙げてまとめとする。

久保園遺跡はこれまでの確認・試掘調査で、縄文時代の遺物散布地、弥生時代中期の墓域、中世の遺物散布地と認識されていた。しかし、7次調査において一部、近世の遺物が混入するが、中世の遺物を主体とする層の確認ができた。限られた調査区のため明確に言及することは避けるが、遺物包含層として考えられる。出土した遺物より、12世紀から14世紀と時期幅が見られる。今後、既報告の再確認及び周辺の調査事例を待って、帰属時期を求めていきたい。

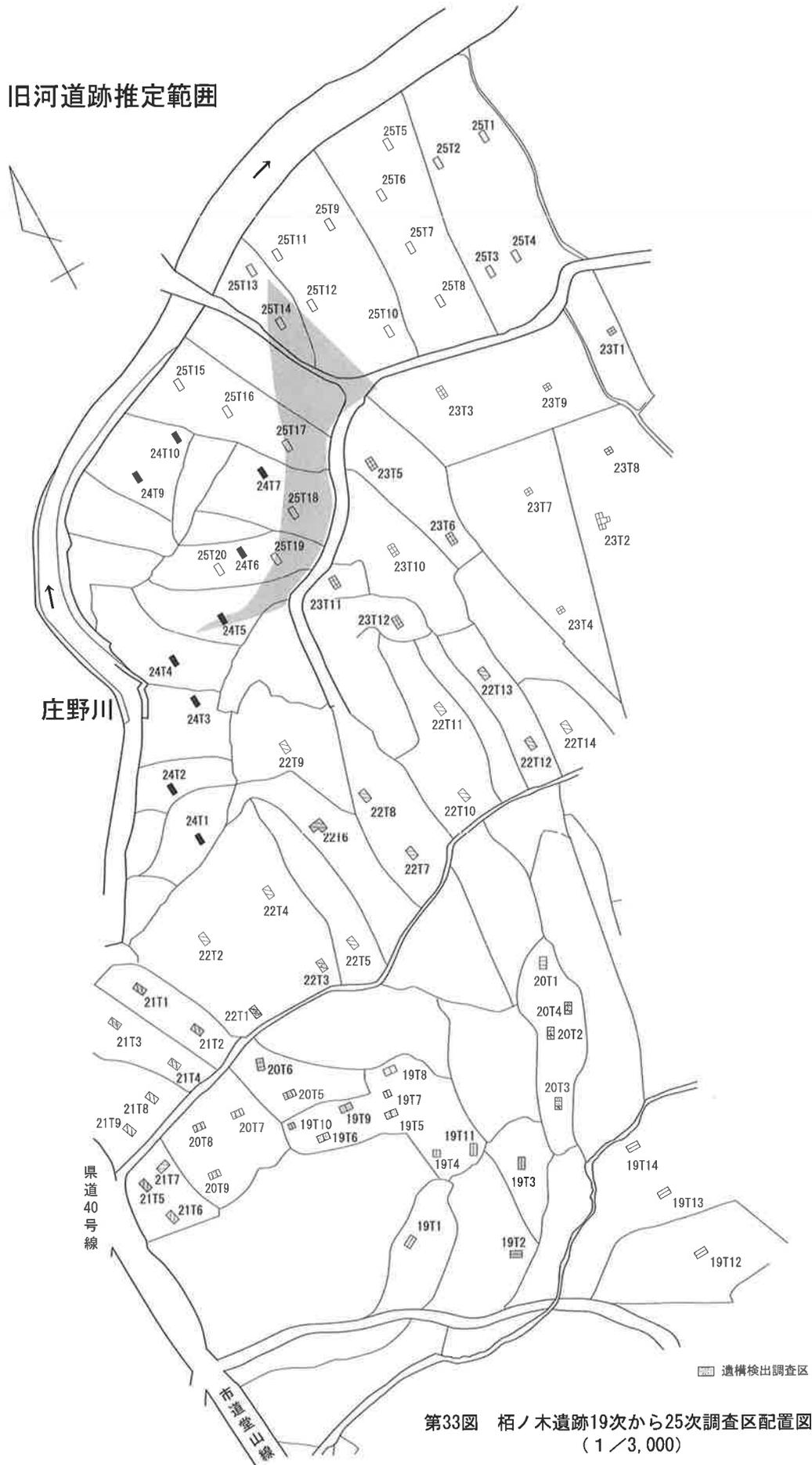
宮ノ下り遺跡は旧石器時代・縄文時代・古墳時代前期の集落遺跡・中世の遺物散布地として認識されていた。今回の調査の結果、遺物包含層は認められなかったが、柱穴跡が確認できた。しかし、その密度は少ない。また、遺物の出土点数が限られることから遺跡の範囲縁辺にあたると考えられ、今後、調査を重ねて範囲の確定をしていかなければならない。

栢ノ木遺跡は本市における弥生時代の重要な遺跡として位置づけられており、範囲確認・試掘調査を継続して実施している。24次・25次調査では、庄野川右岸に位置する沖積地を対象とした範囲確認調査を実施した。それは、昭和51（1976）年文化庁発行の遺跡地図に記載されていた「深町遺跡」の存在及びこれまでの調査の結果より、遺跡範囲がこれまでより北側に展開することが想定されたためである。調査の結果、24次調査では柱穴跡等の遺構の展開が見られ、25次調査では旧河道跡（SR1・SR2）と考えられる土層の堆積が認められた。そこから出土した遺物より、弥生時代前期と中期の遺物を大量に含まれるものの、古代に帰属時期が求められる遺物が出土した意義は大きい。旧河道跡の想定図を第33図に示す。この旧河道跡は地形的状況より、旧庄野川もしくはその支流として捉えられる。その後、江戸時代初頭頃には河川堆積土を利用して水田化したことが、土壌観察及び出土遺物より考えられる。一方、志佐川近くの25次のT1からT13の調査区では湧水が激しく、目的とした深度まで届かなかった。しかし、旧河道跡を確認したことでこれらの調査区の下層に埋没していることが想定される。このため、本遺跡の北域の範囲は、庄野川まで展開することが確認できた。この河川の北域には庄野の六地藏塔が立地しており、今後、本遺跡が展開するか確認が必要であろう。

以上の3遺跡は志佐川兩岸に位置するが、これまでの調査事例より、各時期及び遺構の変遷が辿れると考えられ、今後も重点的に調査を継続し志佐川流域の遺跡群として位置づけられるよう、これまで確認された遺構・遺物の再検討を加えて、各遺跡の解明に努めなければならない。

辻ノ尾遺跡（隣接地）の結果は前章にて既述したが、現状から想定されるこの地域は、良好な地形を呈している。各調査区より出土した遺物は、中世に集中するようである。このため、中世の開発行為が推測され、確認する必要があるだろう。

■ 旧河道跡推定範囲



第33図 栢ノ木遺跡19次から25次調査区配置図
(1/3,000)

田口高野遺跡 5次

番号	調査区	出土層	種類	器種	法量			重さ(g)	備考
					最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)		
1	T 1	Ⅱ	黒曜石	ナイフ形石器	2.1	1.2	0.4	1.0	刃部欠損

久保園遺跡 7次

番号	調査区	出土層	種類	器種	法量(cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
					口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面		
1	T 5	Ⅲ	土師器	坏	—	—	(2.7)	ナデ	ナデ	良	橙色	橙色	精良 砂粒子	
2	T 2	I・Ⅱ	土師器	坏	—	—	(1.8)	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精良 長石・砂粒子	
3	T 5	Ⅳ	土師器	坏	—	—	(2.5)	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精良 砂	
4	T 5	Ⅲ	土師器	坏	—	—	(2.2)	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精良 砂粒子	
5	T 5	Ⅲ	土師器	小皿	—	—	1.2	ナデ	糸切り	良	にぶい褐色	にぶい褐色	やや精緻 砂粒子	
6	T 4	Ⅲ	土師器	坏	—	—	(1.9)	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精良 長石	
7	T 4	Ⅲ	土師器	坏	—	—	(2.1)	ナデ	ナデ	良	にぶい褐色	にぶい褐色	やや精緻 砂粒子	
8	T 4	Ⅲ	土師器	坏	—	—	(2.3)	ナデ	ナデ	良	明褐色	明褐色	精緻 砂粒子	
9	T 4	Ⅳ	土師器	坏	—	—	(2.5)	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精緻 砂粒子	
10	T 5	Ⅲ	土師器	坏	(13.4)	(11.0)	(2.3)	ナデ/回転糸切り	ナデ	良	褐色	褐色	精良 砂粒子	
11	T 5	Ⅲ	土師器	坏	(4.8)	(12.4)	—	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精良 砂粒子	
12	T 4	Ⅲ	土師器	小皿	(7.8)	(5.8)	1.2	ナデ/糸切り	ナデ	良	暗赤褐色	褐色	やや精緻 砂粒子	
13	T 5	Ⅲ	土師器	坏	(9.2)	(6.2)	2.6	ナデ	ナデ	良	浅黄褐色	浅黄褐色	精良 砂粒子	
14	T 5	Ⅳ	土師器	坏	(9.2)	(2.2)	—	ナデ/回転糸切り	ナデ	良	褐色	褐色	精緻 砂粒子	
15	T 5	Ⅲ	土師器	坏	—	(8.4)	(1.5)	ナデ/回転糸切り	ナデ	良	褐色	褐色	精良 長石・石英・砂粒子	
16	T 4	Ⅲ	土師器	坏	—	(8.2)	(1.6)	ナデ/回転糸切り	ナデ	良	褐色	褐色	精良 長石・石英・片岩	
17	T 5	Ⅲ	土師器	坏	—	(9.2)	(1.8)	ナデ	ナデ	良	褐色	浅黄褐色	精良 砂粒子	
18	T 3	Ⅲ	土師器	小皿	—	(6.4)	(1.0)	ナデ/回転糸切り	ナデ	良	褐色	褐色	精緻 砂粒子	
19	T 5	Ⅲ	土師器	坏	—	—	(1.7)	ナデ/回転糸切り	ナデ	良	にぶい褐色	褐色	精緻 砂粒子	
20	T 4	Ⅲ	土師器	碗	—	—	(1.2)	摩滅	摩滅	良	浅黄褐色	浅黄褐色	精良 長石・石英	
21	T 5	Ⅲ	瓦質土器	土鍋	—	—	(3.8)	ナデ	ナデ/ヨコハケ	良	褐色	黄褐色	やや精緻 長石・石英・片岩	
22	T 4	Ⅲ	瓦質土器	土鍋	—	—	(5.5)	ナデ/子頭圧痕	ナデ/ハケ	良	褐色	浅黄褐色	やや精緻 長石・石英	
23	T 4	Ⅲ	黒色土器	土瓶	—	—	(1.6)	ナデ	ナデ	良	褐色	褐色	精緻 砂粒子	内黒
24	T 5	Ⅲ	黒色土器	碗	—	—	(1.3)	ナデ	ミガキ	良	褐色	褐色	やや精緻 長石・石英	高黒
25	T 5	Ⅲ	瓦器	碗	—	—	(2.0)	器面擦過	器面擦過	良	黒褐色	黒褐色	やや精緻	
26	T 4	Ⅲ	瓦器	碗	—	—	(1.6)	器面擦過	暗文	良	灰色	灰色	精緻	
27	T 5	Ⅲ	白磁	碗	—	—	(1.7)	袖	袖	良	—	—	精緻	碗Ⅰ類
28	T 5	Ⅲ	白磁	碗	—	—	(2.7)	袖	袖	良	—	—	精緻	碗Ⅱ類
29	T 5	Ⅲ	白磁	碗	—	—	(3.0)	袖	袖	良	—	—	精緻	碗Ⅲ類
30	T 5	Ⅳ	白磁	碗	—	—	(2.4)	袖	袖	良	—	—	精緻	碗Ⅳ類
31	T 5	Ⅲ	白磁	碗	—	—	(3.8)	袖	袖	良	—	—	精緻	碗Ⅴ類
32	T 5	Ⅳ	白磁	碗	—	—	(1.8)	袖	袖	良	—	—	精緻	碗Ⅵ類
33	T 5	Ⅲ	白磁	皿	—	—	(1.8)	袖	袖	良	—	—	精緻	皿Ⅰ類
34	T 2	Ⅲ	白磁	皿	—	(3.4)	(1.1)	袖	袖	良	—	—	精緻	皿Ⅱ-2
35	T 5	Ⅲ	白磁	皿	—	(2.8)	(1.0)	袖	袖	良	—	—	精緻	皿Ⅲ-1
36	T 5	Ⅲ	青磁	碗	—	—	(2.9)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・碗Ⅰ類
37	T 5	Ⅲ	青磁	碗	—	—	(3.2)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・碗Ⅱ類
38	T 5	Ⅲ	青磁	碗	—	—	(3.5)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・碗Ⅲ-4類
39	T 4	Ⅳ	青磁	碗	—	—	(4.3)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・碗Ⅳ類
40	T 4	Ⅲ	青磁	坏	—	—	(1.7)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・坏Ⅲ類
41	T 4	Ⅲ	青磁	碗	—	—	(4.0)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・碗Ⅴ群
42	T 4	Ⅲ	青磁	坏	—	—	(2.5)	袖	袖	良	—	—	精緻	龍泉窯系・坏Ⅳ類
43	T 4	Ⅲ	青磁	碗	—	—	(2.1)	袖	袖	良	—	—	精緻	高麗・碗Ⅱ類
44	T 5	Ⅲ	陶器	—	—	—	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ	良	灰色	灰色	精緻	高麗陶器
45	T 2	Ⅲ	陶器	—	—	—	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ	良	灰色	灰白色	精緻 白色粒子	中国産?
46	T 5	Ⅲ	陶器	—	—	—	(3.3)	回転ナデ	袖	良	暗褐色	灰白色	精緻 黒色粒子	朝鮮産(雑陶器?)
47	T 5	Ⅲ	陶器	—	—	—	4.0	4.9	袖	良	—	—	精緻	漆道具

宮ノ下遺跡 7次

番号	調査区	出土層	種類	器種	法量(cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
					口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面		
1	T 9	Ⅲ	縄文土器	深鉢	—	—	(4.2)	糸痕	糸痕	良	極赤褐色	極赤褐色	やや精緻 長石・石英	
2	T 7	Ⅱ・Ⅳ	土師器	小皿	—	—	(2.5)	ナデ	ナデ	良	浅黄褐色	浅黄褐色	やや精緻 砂粒子	
3	T 7	Ⅱ・Ⅳ	土師器	碗	—	(5.6)	(1.7)	摩滅	摩滅	良	褐色	褐色	やや精緻 長石・石英	
4	T 1	Ⅲ・Ⅳ	土師器	碗	—	(5.0)	(1.9)	—	—	良	褐色	褐色	やや精緻	袖裏の剥離が見られる
5	T 2	V	白磁	皿	—	—	(1.2)	—	—	良	—	—	精緻	皿Ⅰ類
6	T 2	Ⅳ下	青磁	碗	—	—	(3.3)	—	—	良	—	—	精緻	龍泉窯系・碗Ⅱ類
7	T 7	Ⅱ-Ⅳ	染付	碗	—	3.8	(1.7)	—	—	良	—	—	精緻	

柏ノ木遺跡24次

番号	調査区	遺構名・出土層	種類	器種	法量(cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
					口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面		
1	T 5	北P1-2	弥生土器	壺	(21.8)	—	(7.7)	タテハケ	ヨコナデ	良	黒褐色	褐色	やや精緻 長石・石英	
2	T 5	SK 1	弥生土器	壺	(13.9)	—	(4.6)	ナデ	ナデ	良	黒褐色	黒褐色	やや精緻 長石・石英・砂礫	
3	T 5	SK 1	弥生土器	壺	—	(7.3)	(6.6)	ヨコナデ	摩滅	良	黄色	黒褐色	やや精緻 長石・石英	SK 1-8
4	T 5	SK 1	弥生土器	壺	—	(11.4)	(4.5)	ナデ	板ナデ	良	褐色	黒褐色	やや精緻 長石・石英	SK 1-1
5	T 5	Ⅳ	弥生土器	器台	—	—	(3.8)	ナデ/横走沈線	ナデ	良	褐色	黄褐色	やや精緻 長石・石英	肥前型器台と思われる
6	T 6	P 19	須恵器	壺	—	—	(5.8)	格子目タタキ	同心門文当て	良	灰白色	灰白色	やや精緻 長石	外面自然釉がかかる
7	T 1	Ⅳ	須恵器	深鉢	—	—	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ	良	褐色	褐色	精緻 長石・石英	実器系
8	T 3	Ⅳ	白磁	碗	—	—	(2.5)	—	—	良	—	—	精緻	碗Ⅱ-2類
9	T 1	Ⅲ	白磁	碗	—	(6.6)	(2.0)	—	—	良	—	—	精緻	碗Ⅲ類
10	T 1	Ⅵ	白磁	皿	—	(3.0)	(1.0)	—	—	良	—	—	精緻	皿Ⅰ-1類
11	T 1	Ⅵ	青磁	碗	—	—	(1.9)	—	—	良	—	—	精緻	同安窯系・碗Ⅲ類
12	T 1	Ⅵ	青磁	皿	(10.6)	(5.8)	1.6	—	—	良	—	—	精緻	同安窯系・皿Ⅱ-2b類
13	T 3	Ⅳ	青磁	碗	—	—	(2.6)	—	—	良	—	—	精緻	高麗系
14	T 1	Ⅵ	陶器	不明	—	—	(3.1)	—	—	良	—	—	やや精緻 赤色粒子	碗又は貯蔵具
15	T 1	Ⅲ	滑石製品	石鍋	—	—	(3.8)	使用擦過	使用擦過	—	褐色	明褐色	—	鈔付型

表2 遺物観察表①

箱ノ木遺跡24次

番号	調査区	遺構名・出土層	種類	器種	法量			備考	
					最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)		
16	T 7	II・III	貫岩	扁平片刃石斧	(3.9)	2.9	1.0	15.2	
17	T 5	IV	貫岩	扁平片刃石斧	(5.8)	2.9	0.8	23.6	
18	T 6	P10	黒曜石	石鏃	2.3	1.85	0.4	1.0	
19	T 5	VI	黒曜石	石鏃	2.15	2.4	0.4	2.0	被熱の痕跡が認められる
20	T 1	II・III	黒曜石	石鏃	2.8	1.95	0.5	2.0	
21	T 3	III	安山岩	石鏃	2.0	1.3	0.4	1.0	
22	T 3	IV	黒曜石	剥片	2.45	1.4	0.2	1.0	二次加工が認められる
23	T 5	SK I	玄武岩	磨石	10.3	9.1	2.8	398.0	
24	T 6	IV	木製品	不明	17.4	2.3	1.9	-	

箱ノ木遺跡25次

番号	調査区	遺構名	種類	器種	法量 (cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
					口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面		
1	T19	SR 1	土師器	埴	-	(8.2)	(1.6)	摩滅	摩滅	良	橙色	橙色	精緻 砂岩風化燼	II層出土
2	T19	SR 2	須恵器	蓋	(13.4)	-	(2.8)	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	良	灰色	灰色	精緻 長石	
3	T19	SR 2	弥生土器	壺	-	-	(2.9)	ナデ/キザミ	ナデ	やや良	にぶい黄褐色	灰黄褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
4	T19	SR 2	弥生土器	壺	-	-	(2.8)	ナデ/キザミ	ナデ	良	褐色	灰褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩	
5	T19	SR 2	弥生土器	壺	-	-	(4.2)	ヨコナデ	ヨコナデ	良	灰褐色	灰褐色	やや精緻 長石・石英	
6	T19	SR 2	弥生土器	壺	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ	やや良	にぶい褐色	灰褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
7	T19	SR 2	弥生土器	壺・壺	-	-	(5.8)	摩滅	摩滅	やや良	にぶい褐色	灰褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
8	T19	SR 2	弥生土器	壺・壺	-	(9.0)	(5.7)	ナデ	ナデ	やや良	灰褐色	灰褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
番号	調査区	遺構名	種類	器種	法量 (cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
9	T19	SR 2	玄武岩	石包丁	7.5	4.5	0.7							
番号	調査区	出土層	種類	器種	法量 (cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
10	T17	III	弥生土器	壺	-	-	(1.8)	ナデ/キザミ	ナデ		やや良	褐色		
11	T18	VI	弥生土器	壺	-	-	(3.4)	タテハケ	ナデ	やや良	灰黄褐色	にぶい黄褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
12	T18	VI	弥生土器	壺	-	-	(3.1)	摩滅	糸扱	やや良	にぶい黄褐色	灰黄色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
13	T18	VI	弥生土器	壺・壺	-	-	(4.6)	タテハケ	ナデ	やや良	褐色	褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
14	T18	VI	弥生土器	壺・壺	-	(7.2)	(4.9)	ナデ	摩滅	やや良	にぶい褐色	黄褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
15	T19	V	弥生土器	壺・壺	-	(9.8)	(4.1)	ナデ	ナデ	やや良	褐色	にぶい褐色	やや精緻 長石・石英・結晶片岩・砂岩粒子	
16	T19	V	土師器	壺	-	-	(3.6)	タテハケ	ナデ	やや良	灰褐色	赤褐色	やや精緻 長石・石英・砂岩粒子	
17	T18	VI	土師器	埴	-	-	(3.75)	ヘラケズリ・ミガキ	ミガキ	良	明赤褐色	明赤褐色	やや精緻 長石・石英・砂岩粒子	
18	T18	VI	土師器	埴	-	-	(3.2)	摩滅	摩滅	良	褐色	褐色	やや精緻 長石・石英・砂岩粒子	
19	T17	V	土師器	壺	-	-	(1.5)	ナデ	ナデ	やや良	明褐色	にぶい褐色	やや精緻 長石・石英・砂岩粒子	
20	T18	VI	土師器	壺	-	-	(1.8)	摩滅	ヨコナデ	良	褐色	褐色	やや精緻 長石・石英・砂岩粒子	掛?
21	T19	III	瓦器	埴	-	-	(1.8)	摩滅	摩滅	良	黒色	黒色	やや精緻	
22	T18	VI	陶器	鉢	-	-	(2.8)	輪/回転ヨコナデ	輪	良	-	-	精緻	
番号	調査区	出土層	種類	器種	法量 (cm)			調整		焼成	色調		胎土	備考
23	T19	I	金属器	銅銭	2.4	1.9	0.15							
番号	調査区	出土層	石種	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	調整		焼成	色調		胎土	備考
24	T20	II	安山岩	石鏃	3.5	2.8	0.7							
25	T17	IV	黒曜石	石鏃	3.4	1.6	0.5							
26	T17	II	黒曜石	石鏃	2.7	1.4	0.3							
27	T19	V	黒曜石	石鏃	2.2	1.5	0.5							
28	T19	V	黒曜石	石鏃	1.8	2.3	0.6							
29	T18	V	黒曜石	石鏃	1.8	2.5	0.4							
30	T18	V	黒曜石	石鏃	2.4	2.0	0.3							
31	T20	III	黒曜石	石鏃	2.9	1.8	0.4							
32	T18	V	赤チャート	スクレイパー	2.3	2.8	0.8							
33	T17	III	黒曜石	スクレイパー	2.8	4.1	1.1							鈴植型石刃技法が認められる
34	T19	IV	結晶片岩	不明	11.9	9.9	1.6							259.0

辻ノ尾遺跡 (隣接地)

番号	調査区	出土層	種類	器種	法量 (cm) ()は復元径・残存高			調整		焼成	色調		胎土	備考
					口径	底径	器高	外面	内面		外面	内面		
1	T 1	V	土師器	皿	-	-	(2.0)	摩滅	摩滅	良	黄褐色	黄褐色	精緻 砂岩風化燼	
2	T 1	III	陶器	罎鉢	-	-	(2.5)	ナデ	ナデ	良	灰色	灰白色	精緻 長石・石英	周防系
3	T 2	V	瓦器	埴	-	-	(1.9)	摩滅	摩滅	良	灰白色	灰白色	精緻	
4	T 2	V	陶器	鉢	-	-	(1.9)	輪/ナデ	輪	良	灰色	オリーブ灰色	やや精緻 長石・石英・黒色粒子	瀬戸・美濃系?
5	T 1	II	白磁	碗	-	-	(1.6)	-	-	良	-	-	精緻	碗IV類
6	T 2	V	白磁	皿	-	(4.2)	(2.2)	-	-	良	-	-	精緻	皿VI類

表3 遺物観察表②

旧口高野遺跡5次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 1	0	ナイフ形石器
T 2	I	近世陶器

久保岡遺跡7次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 1	I	中世土師器 近世陶磁器
	III	anフレイク 中世土師器 白磁碗 同安窯系 近世陶磁器 その他
	P 1	白磁皿 その他
T 2	I・II	中世土師器 近世陶磁器 瓦片
	III	中世土師器 白磁碗 近世磁器 瓦片 石片
T 3	P 1	中世土師器
	I・II	須恵質 瓦質 中世土師器 白磁碗 白磁皿 白磁碗IV類 石片
T 4	III	中世土師器
	II	obフレイク anチップ 須恵質 中世土師器 龍泉窯系 白磁碗 近世陶磁器 瓦片 その他
	III	obフレイク anチップ 弥生土器 瓦質 中世土師器 白磁碗IV類 龍泉窯系 青白磁 輸入陶器 瓦片 滑石製品 結晶片岩 須恵質 近世磁器
	IV	obフレイク anチップ 弥生土器 中世土師器 白磁碗 輸入陶器 瓦片
	排土	弥生土器 中世土師器 近世陶器
T 5	II	obフレイク anチップ 弥生土器 中世土師器 白磁碗 白磁皿 龍泉窯系 近世陶磁器 その他
	P 2	中世土師器
	III	obフレイク anチップ 弥生土器 中世土師器 白磁碗IV類 白磁皿 龍泉窯系 瓦質 東播磨系 輸入陶器 石網 近世陶器 その他
	IV	obフレイク anチップ 石網 弥生土器 須恵器 中世土師器 白磁碗 龍泉窯系
	ク	弥生土器 瓦質 中世土師器 白磁碗 白磁皿 龍泉窯系
排土	弥生土器 中世土師器	

宮ノ下遺跡7次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 1	I	obフレイク 近世陶磁器
	I・II	anフレイク 近世陶磁器
	III	白磁碗
T 2	I~III	ob・anフレイク 龍泉窯系 近世磁器
	IV	近世陶磁器
	IV下	ob・anフレイク obUフレイク 弥生土器 中世土師器 白磁碗 龍泉窯系II類 輸入陶器 近世陶器
	V	anフレイク 龍泉窯系
排土	anフレイク 中世土師器	
T 3	II	ob・anフレイク 瓦器 瓦質 近世陶磁器
	排土	近世磁器
T 4	I	ob・anフレイク 近世磁器 瓦片 その他
	III	obフレイク
	IV	anフレイク 近世陶磁器 その他
T 5	I~III	ob・anフレイク 白磁碗 近世磁器
	IV	ob・anフレイク 白磁碗 近世磁器
	V	obフレイク 弥生土器 近世陶磁器
	VI	anコア anフレイク
	VII	ob・anフレイク
	排土	ob・anフレイク 近世陶磁器 その他
T 6	I・II	obフレイク 須恵器 輸入陶器 近世磁器
	III	ob・anフレイク 弥生土器 須恵器 龍泉窯系 近世陶磁器
T 7	IV	obフレイク
	I・II	弥生土器 近世陶磁器
T 8	III	ob・anフレイク 近世陶磁器
	III・IV	ob・anフレイク 須恵器 中世土師器 白磁碗 近世陶磁器 瓦
T 9	I・II	obフレイク 弥生土器 同安窯系 近世陶磁器 瓦
	III	ob・anフレイク obU 中世土師器 周防系 近世陶器
T 9	III	ob・anフレイク 縄文土器

止ノ尾遺跡4次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T10	-	obフレイク 近代土製品

栢ノ木遺跡24次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 1	I	ob・anフレイク 須恵器 近世陶器 その他
	II	ob・anフレイク 弥生土器 白磁碗 近世陶磁器 瓦片 その他
	I・II	石鏃
	III	ob・anフレイク 滑石片 石網 弥生土器 土師器 須恵器 中世土師器 白磁碗 龍泉窯系 同安窯系 近世磁器
	IV	ob・anフレイク anコア 灰obフレイク 結晶片岩 弥生土器 須恵器 中世土師器 東播磨系 輸入陶器 近世陶磁器 その他
	V	ob・anフレイク anコア 須恵器
	V下	ob・anフレイク 弥生土器 須恵器 中世土師器 白磁碗 龍泉窯系 近世磁器
	VI	白磁皿I類 龍泉窯系 同安窯系 輸入陶器 銅銭(寛永通宝)
	Pit内	ob・anフレイク 灰obフレイク 土師器
	ラベルなし	ob・anフレイク 須恵器

栢ノ木遺跡24次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 2	0	anフレイク 瓦片 その他
	*	obフレイク 近世陶器
	IV	ob・anフレイク anコア
	VI	anフレイク 中世土師器 白磁碗 同安窯系 近世磁器
	VII	灰obフレイク 加工痕のある石器 中世土師器 龍泉窯系 近世磁器
	VIII	ob・anフレイク 弥生土器
	層位不明	obフレイク 灰obフレイク 加工痕のある石器 弥生土器 土師器 中世土師器 龍泉窯系 近世陶器
	層位不明	中世土師器 龍泉窯系 近世陶器
T 3	I	anフレイク 須恵器 中世土師器 近世陶磁器 瓦片 その他
	II	石鏃 弥生土器 中世土師器
T 4	*	ob・anフレイク 近世陶器
	IV	ob・anフレイク 加工痕のある石器 弥生土器 白磁碗 近世陶器
T 5	I	anフレイク 近世陶磁器
	II	ob・anフレイク 灰obフレイク
	III	anフレイク 近世陶器
	III	ob・anフレイク 弥生土器 近世磁器
	III	ob・anフレイク 弥生土器
	*	ob・anフレイク obチップ 弥生土器 中世土師器 白磁碗 近世磁器
	IV	ob・anフレイク 弥生土器
	ク	ob・anフレイク anチップ 石鏃 弥生土器 瓦質 龍泉窯系 その他
	VI	ob・anフレイク anチップ 弥生土器
	Pit 1	ob・anフレイク 弥生土器
	Pit 2	anフレイク
	北Pit内	anフレイク
	SX 1	ob・anフレイク 弥生土器
	北P1	ob・anフレイク 縄文土器 弥生土器
	北P2	縄文土器 弥生土器
	No 1	縄文土器
	T 6	SK 1 1~9
SK 1		ob・anフレイク 石器製品 弥生土器
P 1		obフレイク 弥生土器 近世磁器
P 2		ob・anフレイク 弥生土器
P 3		obフレイク 弥生土器 近世磁器
P 4		ob・anフレイク 灰obフレイク 弥生土器
P 5		弥生土器
P 6		弥生土器
P 7		anフレイク 弥生土器
P 8		obフレイク 弥生土器
P 9		anフレイク 弥生土器
P 11		弥生土器
P 12		obフレイク
P 13		ob・anフレイク 縄文土器 弥生土器
P 15		ob・anフレイク 縄文土器 弥生土器
P 16		anフレイク 弥生土器
P 17		obフレイク 灰obフレイク
P 18	obフレイク 弥生土器	
P 19	anフレイク 弥生土器 須恵器	
P 20	obフレイク 弥生土器	
P 21	obコア obフレイク 灰obフレイク 弥生土器	
T 7	I・II	ob・anフレイク 弥生土器 中世土師器 近世陶磁器
	III	ob・anフレイク 弥生土器 近世磁器
	IV	ob・anフレイク 弥生土器
	*	obフレイク 弥生土器
	V	ob・anフレイク anチップ 灰obコア 加工痕のある石器 石鏃 縄文土器 弥生土器 須恵器 中世土師器 龍泉窯系 その他
	VI	ob・anフレイク 弥生土器 中世土師器
	VII	obフレイク 弥生土器
	P 5	ob・anフレイク 縄文土器 弥生土器
	P 9	ob・anフレイク 灰obフレイク 弥生土器
	P 10	obフレイク 石鏃 弥生土器
T 9	II	ob・anフレイク 弥生土器 近世磁器
	II・III	obフレイク 石器製品 弥生土器
	III	近世陶器
	IV・V	ob・anフレイク 弥生土器 龍泉窯系
	V下	ob・anフレイク 縄文土器 近世陶磁器
T 10	Pit 1	anフレイク
	I	瓦器 近世陶器
	II	近世陶器
T 10	III	白磁碗 近世陶磁器 その他
	I	弥生土器 近世磁器
T 10	II	ob・anフレイク 須恵器 近世陶磁器
	IV	anフレイク 弥生土器 須恵器 中世土師器

栢ノ木遺跡25次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 1	表採	弥生土器 近世磁器
	II	その他
T 2	I	obチップ
	II	近世磁器
	III	anチップ 近世陶磁器 その他
	IV	近世磁器
排土	白磁碗	

表4 出土遺物一覧表①

栢ノ木遺跡25次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 3	Ⅱ	弥生土器 近世陶磁器
	Ⅲ	土鏡
	排土	瓦片
T 4	Ⅱ	obフレイク obチップ
	Ⅲ	obチップ 土師器 その他
T 6	Ⅱ	obフレイク 弥生土器 須恵器 近世陶磁器 その他
	Ⅲ	obフレイク 近世陶磁器 瓦片 その他
	Ⅳ	anフレイク
	排土	白磁碗 近世陶器
T 7	Ⅰ	弥生土器 近世陶磁器 その他
	Ⅱ	その他
T 8	Ⅰ	obフレイク 近世陶磁器 瓦片
	Ⅱ	ob・anフレイク 弥生土器
T 9	Ⅰ	近世陶磁器
	Ⅱ	ob・anフレイク 弥生土器 土師器 近世陶器
T 10	Ⅲ	ob・anフレイク 弥生土器 輸入陶器
	排土	obフレイク
T 11	Ⅰ	その他
	Ⅱ	近世磁器
T 12	Ⅰ	近世陶磁器 その他
	Ⅱ	中世土師器 土鏡 近世陶磁器 その他
T 13	Ⅰ	白磁碗 近世磁器 その他
	Ⅱ	obフレイク 近世磁器 瓦片 その他
T 14	Ⅰ	近世陶磁器 その他
	Ⅱ	obフレイク 弥生土器 近世磁器
	Ⅲ	obフレイク 白磁碗
	Ⅳ	obフレイク
T 15	Ⅰ	近世陶器 その他
	Ⅱ	近世磁器 その他
T 16	Ⅰ	anフレイク 土師器 近世磁器
	Ⅱ	ob・anフレイク
T 17	Ⅰ	ob・anフレイク 近世陶磁器
	Ⅱ	ob・anフレイク 石鏡 弥生土器 土師器 近世磁器
	Ⅲ	ob・anフレイク 弥生土器
	Ⅳ	ob・anフレイク 石器製品 加工痕のある石器 弥生土器 土師器
	Ⅴ	obコア ob・anフレイク 石鏡 加工痕のある石器 弥生土器 土師器
	Ⅵ	ob・anフレイク 滑石片 弥生土器
	排土	obフレイク
	Ⅰ	obフレイク
T 18	Ⅱ	ob・anフレイク 弥生土器 龍泉窯系 白磁碗 瓦片
	Ⅲ	ob・anフレイク 弥生土器 その他(方解石)
	Ⅳ	ob・anフレイク 弥生土器 土師器
	Ⅴ	ob・anフレイク 石鏡 スクレイパー(赤チャート) 弥生土器 土師器 須恵器 近世陶器
	Ⅵ	ob・anフレイク 結晶片岩 弥生土器 土師器 須恵器
	Ⅶ	ob・anフレイク 灰obフレイク 石器製品 弥生土器 土師器
	排土	ob・anフレイク 弥生土器 土師器 白磁碗

栢ノ木遺跡25次

番号	遺構名・出土層	出土遺物
T 19	Ⅰ	ob・anフレイク 中世土師器 龍泉窯系 白磁皿 銅鏡 近世磁器
	Ⅱ	ob・anフレイク 弥生土器 龍泉窯系 近世磁器
	Ⅲ	ob・anフレイク 弥生土器 瓦器 白磁碗 その他
	Ⅳ	ob・anフレイク 灰obフレイク 石器製品(赤チャート) 弥生土器 土師器 中世土師器 その他
	Ⅴ	ob・anフレイク 灰obフレイク 石鏡 弥生土器 土師器 白磁皿 その他
	Ⅵ	ob・anフレイク 弥生土器 土師器
	Ⅶ	ob・anフレイク 弥生土器 土師器
	排土	ob・anフレイク 灰obフレイク 弥生土器
	SR-1Ⅰ	ob・anフレイク 弥生土器 土師器 その他
	SR-1Ⅱ	anフレイク 弥生土器 中世土師器
SR-2Ⅰ	ob・anフレイク 灰obフレイク 石器製品 加工痕のある石器 弥生土器 土師器 須恵器 その他	
	anフレイク	
T 20	排土	ob・anフレイク 灰obフレイク 弥生土器
	Ⅰ	ob・anフレイク 弥生土器 中世土師器 近世陶磁器
	Ⅱ	ob・anフレイク 石鏡 弥生土器 近世磁器
Ⅲ	ob・anフレイク 石鏡 弥生土器 土師器	

辻ノ尾遺跡(隣接地)

番号	遺構名・出土層	出土遺物一覧表
T 1	Ⅰ	中世土師器 白磁碗 近世磁器 瓦片 近・現代陶器
	Ⅱ	中世土師器 龍泉窯系 白磁碗 近世磁器
	Ⅲ	須恵器 中世土師器 黒色(内) 東播磨系 白磁碗
	Ⅳ	中世土師器
	Ⅴ	近世陶器
T 2	Ⅰ	obフレイク 瓦器 中世土師器 黒色(内) 白磁碗 龍泉窯系 陶器 近世磁器
	Ⅱ	弥生土器 中世土師器 東播磨系 白磁碗 龍泉窯系 輸入陶器 近世陶磁器
	Ⅲ	ob・anフレイク 滑石片 瓦器 中世土師器 黒色(内)・(陶) 白磁碗 白磁皿 白磁瓶 龍泉窯系 輸入陶器 高麗 近世陶磁器
	Ⅳ	anフレイク 弥生土器 近世磁器
	Ⅴ	近世磁器 近・現代磁器
T 3	Ⅰ	近世陶器
T 4	排土	近世陶器

表5 出土遺物一覧表②

番号	層位	ob F	an F	結晶片岩	弥生土器	須恵器	中世土師器	黒色土器	瓦器	須恵質	瓦質	滑石製石鍋	龍泉窯系	白磁	高麗	青白磁	輸入陶器	近世陶器	近世磁器	瓦	計
T 4	Ⅲ	7	5	1	105	0	209	3	1	5	1	1	14	11	0	1	1	2	0	2	369
	Ⅳ	6	5	0	39	0	80	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	135
T 5	Ⅲ	22	10	0	44	0	377	3	6	0	3	2	10	9	1	0	0	2	0	0	489
	Ⅳ	10	1	0	10	1	124	0	0	0	1	1	7	10	0	0	0	0	0	0	165
計		45	21	1	198	1	790	6	7	5	5	4	31	34	1	1	2	4	0	2	1158

表6 久保園遺跡7次出土遺物組成表

番号	遺構名	層位	ob F	an F	灰ob F	UF	石器製品	滑石片	弥生土器	土師器	須恵器	古代土師器	その他	計
T 14	SR	Ⅷ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
T 18	SR	Ⅶ	20	23	1	0	2	0	62	30	0	0	0	138
T 19	SR 1	Ⅰ	8	5	0	0	0	0	20	4	0	1	0	38
		Ⅱ	2	7	0	0	0	0	20	0	0	3	0	32
	SR 2	Ⅰ	125	114	2	1	1	0	212	18	1	0	1	475
		Ⅱ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	156	150	3	1	3	0	314	52	1	4	1	685	

表7 栢ノ木遺跡25次旧河道跡出土遺物組成表

圖 版



図版1 田口高野遺跡5次遠景



図版2 田口高野遺跡5次T1北壁土層



図版3 田口高野遺跡5次T2北壁土層



図版4 田口高野遺跡5次出土遺物



図版5 久保園遺跡7次遠景



図版6 久保園遺跡7次T4北壁土層



図版7 久保園遺跡7次T5P1・2完掘状況



図版8 久保園遺跡7次T5北壁土層



図版9 久保園遺跡7次出土遺物①



図版10 久保園遺跡7次出土遺物②



図版11 久保園遺跡7次出土遺物③



図版12 久保園遺跡7次出土遺物④



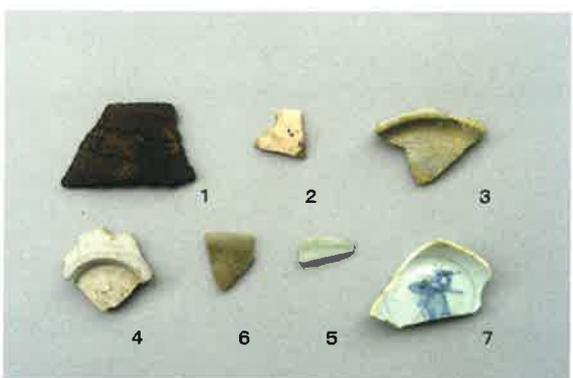
図版13 宮ノ下り遺跡7次T1西壁土層



図版14 宮ノ下り遺跡7次T2西壁土層



図版15 宮ノ下り遺跡7次T5西壁土層



図版16 宮ノ下り遺跡7次出土遺物



図版17 ぎぎが浜遺跡遠景



図版18 ぎぎが浜遺跡T1西壁土層



図版19 辻ノ尾遺跡4次遠景



図版20 辻ノ尾遺跡4次T2西壁土層



図版21 栢ノ木遺跡24次T3東壁土層



図版22 栢ノ木遺跡24次T5遺構完掘状況



図版23 栢ノ木遺跡24次T5落ち込み完掘状況



図版24 栢ノ木遺跡24次T6遺構完掘状況



図版25 栢ノ木遺跡24次出土遺物①



図版26 栢ノ木遺跡24次出土遺物②



図版27 栢ノ木遺跡24次出土遺物③



図版28 栢ノ木遺跡25次遠景



図版29 栢ノ木遺跡25次 T17 S R 完掘状況



図版30 栢ノ木遺跡25次 T18東壁土層



図版31 栢ノ木遺跡25次 T19 S R 1・2 完掘状況



図版32 栢ノ木遺跡25次 T20完掘状況



図版33 栢ノ木遺跡25次出土遺物①



図版34 栢ノ木遺跡25次出土遺物②



図版35 栢ノ木遺跡24次・25次出土遺物



図版36 辻ノ尾遺跡（隣接地）T1 風倒木完掘状況



図版37 辻ノ尾遺跡（隣接地）T2 VI層完掘状況



図版38 辻ノ尾遺跡（隣接地）T3完掘状況



図版39 辻ノ尾遺跡（隣接地）T4完掘状況



図版40 辻ノ尾遺跡（隣接地）出土遺物

松浦市文化財調査報告書 第5集

松浦市内遺跡確認調査(3)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告

平成24年3月23日

発行 長崎県松浦市教育委員会
長崎県松浦市志佐町里免365番地

印刷 山口印刷株式会社
佐賀県伊万里市二里町大里乙3617-5

